月刊武上

武上 渓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月刊武上

【Ｎコード】

Ｎ９９３６Ｄ

【作者名】

武上　渓

【あらすじ】

月一回連載のエッセイです。武上作品の背景を綴っていきます。

月刊武上４月号

今月より連載になります。月一回のペースでエッセイ作品としても成立するよう頑張るつもりです。

まずは近況から行きます。創刊号で書いた競馬を舞台とした小説は執筆を中止しました。理由は創刊号の中に書いた通りです。フィクションとして、省略してはいけない部分が競馬の世界には多すぎると考えました。それを語るとしたなら、キチンとした取材を元に、ノンフィクションを書くしかないというのが結論です。武豊の瞬間という秀逸な競馬ノンフィクションがあります。それは著者が、武豊騎手と友人関係であればこそ書く事ができた本です。ノミ行為という犯罪がある中で、一般の人間が競馬関係者に接触するのは簡単ではないようです。

こういった事情で、断念しました。

すでに、次の下書きに入ってます。君はあの日まま帰ってきたの、小谷刑事を主人公として分部とのリターンマッチを軸に、人間愛を描いてゆきます。ご期待下さい。

告知はこれくらいで、本題に入らなければなりません。

毎朝、出勤前の朝食を食べていると、たいていズームインがテレビ画面に映ってます。朝7時からは、とにかく交通事故から事件に至るまで死者が出た話ばかりが集中しています。交通事故は別としても、殺人事件がこれほど起こるのは何だろうと思ってしまいます。いろんな人達がいろんな原因を語るわけですが、共通して思うのは、命に対して敬意を払う気持ちがないように見える事です。

人は健康に生きているだけでも、ウィルスを殺しています。それによって免疫力を上げてさえいます。食事も然りです。よく禅宗のお坊さんが、いただきますの前には、命をが付いていますと言われます。

ー命をいただきます

と…。人が今日あるのは、多くの命の上にあるのだから、その命を粗末にするなという意味だと…。

この意味を知らなければ、自分の命に敬意を払えない。

自分の命に敬意を払えなければ、他人の命にも敬意を払う事はできない。自殺や殺人は自分を知らない人がするものかなと…そんな風に思います。でも、絶望すると自分に誇りが持てなくなる事はありますよね。でもきっと、それでも希望を求めて生き抜かなければならないんでしょう。自分の為に、毎日犠牲になってくれてる命の為に。

そんな風にみんなが思う事で、少しは殺人事件が少なくなればいいなと思います。私達は多くの命のリレーのアンカーと言っても良いかもしれません。寿命というゴールにたどり着かない事が、どれほど悲しい事かを思わなければなりません。明日の朝も、心の中でー命をーと思ってから

「いただきます。」と食事に向かいたいと思います。

では5月号で、お会いしましょう。

武上渓でした。

月刊武上５月号

月刊武上５月号

今月は環境について、思った事を書いてみようと思います。
環境保護を扱ったテレビ番組では、こんな素晴らしい自然があり、破壊してはいけない…。という流れで終わってゆく事が多いです。ふと考えると、この番組を見た人達の多くはきっと、この素晴らしい自然をこの目で見ようと、週末に出かけるんだろうと思うわけです。
しかしながら、自然は人が踏んだだけで、生えない植物があるらしいと聞きます。年間何万もの人が訪れれば、受け入れ施設が必要になり、道路ができ建物がたち…と完璧に開発されてしまいます。必要最小限の巨大な施設がどう見ても、環境保護とは思えない。上高地に行かれた方もおられると思いますが、河童橋周辺が渋谷の交差点みたいになっているのに遭遇されたと思います。開発のスピードを遅くする事はできても、人がそこに行けば止める事ができるとは思えません。武上渓が何を思ったかというと、素晴らしい自然があるなら、そこに行かない事が最大級の自然保護だと言う事です。
レジ袋や電気を消すよりも確実に森林を守ってゆけるんじゃないでしょうか？。人が行かなければ、道路もホテルも土産物屋も整備されないでしょう。
実はこの考え方は、機動戦士ガンダムの主題であった事を最近知りました。
これ以上人が住んでいると地球環境が壊滅すると判断した連邦政府は、コロニーへの強制移住をさせるわけです。そして７９年後の地

球には、特権階級の人々が未だ、何十万人も住んでいて環境を壊滅させようとしている。それに怒り狂ったコロニーの人々との対立が、戦争を誘発させている。それが、アニメの戦闘シーンの根拠になってる訳です。さらに、その戦闘が資源を浪費し、地球を破壊すると…。現実に戻って、戦闘機や軍事車両に排出ガス規制がないというのをご存知でしょうか？。戦争は環境破壊そのものなんです。
市民のエコは、戦闘機の離発着で軽く吹き飛ばされているような気がします。

ならばどうせいと言うのか？。あらゆるコマーシャルに引き金を引かれて、必要のない物を買ったり、必要のない行楽に行かない事じゃないでしょうか？。それで商業ペースが落ちれば、十分に環境保護になるんじゃないでしょうか？。

何か我慢するばかりのようですが、集団の集中した消費こそが、もっとも環境に厳しいように思います。マスコミで紹介されたら、買わない行かないが、エコじゃないかなと思います。それじゃあ商売が成り立ってゆかない…。でも地球に住めなくなるとしたなら…。どっちにするかを選択しなきゃならない。でも選ばないというのが、今の世界の状況です。もはや、不要な物にお金を出さない。これがもっとも有効で効き目のある環境保護に思えるんですが？どうなんでしょうか…。

では来月という事で、武上渓でした。

月刊武上臨時増刊号

ー月刊武上臨時増刊号

月刊武上について、読者さんからメッセージを頂きました。とても大切な内容でしたので、６月号をまたずに書かせて頂きます。

ご本人としては、不特定多数に公開したくない内容であると思っておられるようですが、武上渓自身は、エッセイの短編として投稿して頂きたいと思っています。

この読者さんは、一つの命を救われました。しかし、そのほかの複数の命を救えませんでした。

その命を思う事で、自分の非力さに心を痛めておられます。それは、観音様の心です。（武上渓は仏教の専門家ではないので、読んだり聞いたりした事を元にしてますので、正確でなかったらご指摘ください。）千手観音という仏像をご存知だと思います。

人々を救おうとしても救いきれない為、千本の手を持った仏様だそうです。しかし、それでも救いきれない哀しみを現しているそうです。

救った命と、救えない命に思いを寄せる気持ち…。これは観音様の気持ちだと思います。

では、この哀しみをどうしたらいいのでしょう。お釈迦様は自分に一番近い人から一人づつ救ってゆくのだそうです。

一人ではなく、たくさんの観音様の気持ちを持った読者さんのような人がいたらどうでしょう?。

それは可能だと思います。

この読者さんが、自らの気持ちを投稿によって見せられれば、必ず同じ体験や想いを持った方もおられるはずです。そして、同じ想いを持って下さる方もいると思います。それが一人でも、２つの命が救えます。そうやって増えてゆけば、理論上は全ての命が救えます。現実は厳しいでしょうが…。

小説は、主題に込めた気持ちを、増やしてゆく事も目的のひとつと考えます。

是非とも、メッセージをくださった読者さんの観音様の気持ちを投稿してください。これは、あなたの独り言にしてはいけないと思います。ご検討ください。

一般の読者さん。何のこっちゃと思われていると思います。申し訳ありません。これは武上渓の私情である事は重々承知です。ご批判は甘んじて受ける覚悟です。お許しください。

武上渓

月刊武上６月号

ー月刊武上６月号

今月はバットエンドについて、思いつくままに書いてみようと思います。

ゲームで選択肢のあるものでは、お馴染みのバットエンドですが、小説ではあまり納得できるものは無いなぁと思います。そもそも、バットエンドなんて読まされてたまるかと、読者の武上渓としては思ってます。ジョージ　ルーカスも、人々は明るい未来の展望を見たがっていると、自叙伝に書いてありました。有名なバットエンドは織田信長でしょう。もっとも史実なので、文句は言えないんですが、人の気持ちを踏みにじるとこうなる…そんな教訓として納得するんでしょう。考えてみると古典の悲劇物は教訓を含んでるんだなぁと思います。芥川の蜘蛛の糸も、納得させられるのは、教訓の部分です。

今月をこのテーマにした、そもそもの理由は、フラッグと言う、凄まじいバットエンドのＣＧアニメを見たからです。
まだ見てない方、これから見られる予定の方は、内容を書いてしまうので、この先は読まないでください。

延々感情移入させてきた主人公を、まさにあっけなく、メインストーリーも終わって、そのままエンディングで良い部分で爆死させてしまうのです。
さすがに、怒りと憤りを感じました。理由はなんだ！と云うわけです。感情移入している主人公を殺すのは、見ている人間を殺すに等しい行為です。武上渓がやれば、荒らしにあっても同情する人は居ないでしょう。
その怒りと憤りを満載して、特典映像のスタッフコメンタリーをスタートさせました。

結論を先に書くと、見事に総監督の高橋良輔さんの意図にハマり、反省させられました。
主人公は女性の報道カメラマン…戦場カメラマンとも言いますが、架空の国の紛争地帯で帯同取材をします。武装勢力を相手にミッションを行う国連軍と戦場に行くわけです。そこで戦闘に遭遇し、武装勢力の兵士が射殺されるのも見る事になります。さらに、見る側は、テロリストの拠点があるとして市街地に爆弾が投下され、市民が犠牲になる所も見ます。
これを踏まえて、原作総監督の高橋良輔さんのコメントが、怒り心頭の武上渓に冷水を浴びせる訳です。
ーこの物語の中では、沢山の人が死んでいます。その死と白州…主人公です…の死は同等なんですー

つまり、武装勢力の兵士や市民が死ぬ時には、ヒドイとは思いつつも、主人公に対してと同じ怒りを覚えなかった、武上渓は間違っていると…。

紛争地帯のニュースを見ている大半が、他人事としか感じてない事実を突き付けられる思いです。

現実は武上渓自身が生きるだけで、いっぱいいっぱいです。悲しいかな、紛争地帯の人は、自分自身で切り抜けて欲しいと思うのが、精一杯です。しかし、怒りを持たない自分は、やはり間違いです。このアニメは、身内の普通の女の子が、理由なくテロの犠牲になった気持ちを体験させてくれる、意味のある秀逸なバットエンドだと感じます。素人とは云え、物語を書く者として、このバットエンドを作る覚悟と勇気は勉強させられました。

高橋良輔さんは、テレビアニメを制作されていますが、お前のアニメは人を殺してるんだぞと言われるそうです。

しかし、見る側が要求し、スポンサーがそれに追随する現状からすれば、その批判は制作スタッフだけに向けられるのは理不尽です。その気持ちもフラッグに込められてる気がします。

結局世界は、戦争も含めて、地球に住む全員の意識の責任に帰って行くようです。幸せと繁栄を要求するプレッシャーが、戦争を決断させる要因の一つになっている事は事実です。ブッシュ大統領が、アメリカの為と言っているアラブ世界に対する政策を、アメリカ市民が止められないのはそこに矛盾があるからでしょう。

世界中で起こっているバットエンドを教訓と考えて、なんとか…せめてグッドエンドにする気持ちを世界の半分の人でも持てれば…そんな事を思った6月号でした。

では、来月月刊武上でお会いします。

２００８年６月１日武上渓

1月刊武上7月号

1月刊武上7月号

まずは小谷編を読んで下さってる読者さん。投稿ペースが遅くて申し訳ありません。本業の方が、作家をやらせてくれる時間を与えてくれません。バラバラと行く事になります。ご理解下さい。

今月は、小谷編で困惑している部分について書いてみます。
何に困惑しているのかと云うと、秋葉原の事件です。
小谷編では、分部の更生がラストで描かれてゆきます。その更生に対して、主題の人間愛を語るわけです。もっと簡単に言うなら、犯罪者を社会復帰させる事を被害者が許容できるかと云う問題です。
今回の秋葉原の犯人が、何年かで出所した時、彼が再び殺人をしないと信じられるか?。武上渓自身は出来ないと言わざるおえません。おそらく、精神鑑定が行われるでしょう。ここまで異常な犯行を、正常な精神でやれる訳がありません。ならば、死刑は無くなるでしょう。そうすると終身刑でも、出所の可能性があるそうです。更生が前提の有期刑は、出所させないと云う事は出来ないのだそうです。秋葉原の犯人が、目の前に現れたら…。彼の更生を信じる自信はありません。
それでもなお、ストーリーを変えない決意でいます。犯罪者として登場させた、分部豊と云うキャラクターを完結させるには、更生させるしか無いと考えるからです。多くの刑事物やサスペンスは、逮捕されるか死亡する事で終わります。しかし、その後の加害者と被害者の人生は続くはずです。両者が死亡しても、周囲の家族関係者

も以前の暮らしを変えられてしまうでしょう。何ひとつ終わってないじゃないかと…。加害者が未来において犯罪者で無くなるのなら、それを終わりと呼んでいいんじゃないか…と。
現実にはファンタジーである事は確かです。しかし、性善説で更生を根拠とする現実のシステムがファンタジーであってはならないと思います。
刑務所の後の保護観察と云うシステムが、機能していないと指摘する人もいます。では徳川幕府のように、小伝馬町の牢屋に入った罪人は、ほとんど生きて出られなかったと云うシステムの方が良いのか?。
冤罪を完全に防げない問題からしても、それは暗黒時代を到来させる気がします。
こうした考えを踏まえて、後半の小谷編を展開させて行きます。アガサ　クリスティーのように、加害者だけでなく、被害者にも取り巻く人々にも、警察にも司法にも問題を指摘する姿勢が必要かなと思います。
小谷編でも、前作の君はあの日…にも、こうした姿勢を盛り込んだつもりですが、伝わってないかもな〜と力不足を感じてます。
では、今月はここまで。武上渓でした。

ー月刊武上８月号

ー月刊武上８月号

小谷編の完結以来のご無沙汰です。
現在は次回作の導入部３話の下書きを終えた状況です。中国スパイによって、生命の危機に瀕している子犬の種類が決定しました。ウエルシュ　コーギー　ペンブロークです。イギリス　ウェールズペンブロークシャー地方で牛のかかとをカプッとして誘導していたと雑誌に書いてありました。手間がかからずタフと云う事で登場となりました。併せて、犬の科学なる本を読んでます。かなり意外なアプローチで切り込んでいて、愛犬家らしいんですが、それにしては過激じゃないかと思わせる内容です。例えば、野犬が人を噛む事故より、飼い犬が飼い主を噛む事故の方がはるかに多いなどなど…。この本を買った時に、何となく買ってしまった本も結構次回作に使えそうです。
交通事故は何故なくならないか　　ーリスク行動の心理学

大ざっぱに云うと、状況が良くなってもリスクを取る高さを人は調節してしまうので、事故率は変わらない。高性能の走行安定性も操縦性も制動性もあらゆる安全性のアイデアも、効率を上げる為にアクセルを踏んで消費してしまうのが人の心理なんだそうです。状況によって価値観を変える人が次回作の主題になってますので、参考になりそうです。
さらに、訳者のあと書きで、こんな文章がありました。
人は未来に幸せが待っていないと感じると、現在の充足を満たそう

とする。
重要なのは、感じると云う部分かなと思います。たとえ、現実がどんなに過酷でも、感じる人は人を刺したりしない。とりあえず飢える事もなく、命を奪われる事もなくても、幸せが待っていると感じられない人は、ストレスに耐えられなくて自殺か人を刺しに行ってしまう。
ジョージ　ルーカスが映画に必要なものは、明るい未来への展望だと言っています。それが、ナイフの販売規制や警備の見直しよりも、はるかに有効な手段のように感じました。
ありがちなハッピーエンドでも、読者さんを納得させられるなら、作家と云うのは命を守る仕事であると信じたい。たとえ明日世界が終わるとわかっていても、作家がすべき事は
世界は未来はホラ、こんなに素晴らしい
と書く事だと。
今月はこんな所で、また来月にお会いします。

２００８年７月３１日
武上渓

ー月刊武上９月号

ー月刊武上９月号

まずは近況です。
次回作は３話まで投稿可能状態です。前書き後書きプラス８話で完結しますので、もうしばらくお待ち下さい。

次回作は犬の処分と云う現実を扱わせてもらいます。犬の処分と云うキーワードでネット検索してみると、沢山のサイトが出て来て、正直驚きました。地域によって状況はさまざまで、持ち込まれた犬を引き出せない所もあれば、岐阜市保健所のように、犬の譲渡会で引き取り可能な所もあるようです。過去には持ち込まれた犬全て、引き取られた回もあったようです。詳しくは岐阜市保健所で検索してみて下さい。
殺処分のレポートは、アウシュビッツを連想させるもので、恐怖すらも感じました。誰の飼い犬になるか、どのブリーダーに産まれるか…。どの保健所に持ち込まれるか…生死を賭けなければならないんだなと思うと、ペットを見たら幸運を祈らなければと思いました。
ただ、自分達もイラクに産まれていたら、アフガニスタンに暮らしていたら…。動物でも人でも、こんな状況を生み出している組織が有るわけで、事情が山程有るんだろうけど、違うと言わないと永遠に変わらないんだなと考えます。レイテ戦記と云う本の後書きにこんな文章がありました。
ー国家と言う歯車は、なかなか動かない。しかし動き出したらなか

なか止められない－
なんともならない事情が有ったとしても、それが止められない事を国家の判断を作成する官僚の方も、決定する政治家の方も心に留めて頂きたい。なかなか止められない間違った歯車の犠牲に対して、言い訳など有るわけがないのですから。
そして、なかなか止められない歯車を止められるのは、一般市民の世論に頼るしかない事も。
国家の一つの判断は、多くの命に関わる事を強く思って頂きたい。
次回作にも、こういった事を盛り込みました。
では、また来月月刊武上でお会いします。

２００８年９月１日

武上渓

ー月刊武上１０月号

ー月刊武上１０月号

まずお詫びです。神様はきっと見ているの登場人物で、設定の間違いがありました。長沼桜は小学校2年生でなければならない所、幼稚園児として書いてしまいました。すでに訂正されたものに差し替えさせて頂きました。充分な校正をおこなわず投稿してしまった事を、お詫びいたします。

次に近況です。クライムズクライシスのアクセスが、ユニークで３人程度の日別アクセスだったのが、突如日別１００前後に跳ね上がりました。またアクセス解析壊れたかな？と思った訳ですが、他の投稿小説は変わりありません。誰かが紹介してくれたかな？と云うのも、そうでもない。もしやとネット検索してみると…クライシスで、ハイクライシスと云う映画のサイトの次にヒットしてました。この映画のサイトに来た方々に流れて来てもらえたようです。タイトルによっては、なろう以外の方に見て貰えるチャンスがあるようです。題名を付ける時に、ネット検索してみるのも大事かもしれません。参考にして下さい。

では今月のテーマです。評価について、思いつくままに書いてみようと思います。ＭＳイグルーと云うＣＧアニメがあります。そのコ

ミック版の中に、こんな言葉がありました。
ー技術開発は未来への扉だ。評価は、その扉を開く鍵だー
技術開発を小説執筆に置き換えれば、そのまま使えると思います。
作者にとって、評価は運転席からの視界でありバックミラーであり、他の車のクラクションです。評価がなければ、ちゃんと走っているかどうかを確認出来ません。しかし、間違った評価は不安を掻き立てて、作者は走れなくなってしまいます。先日、徹子の部屋で西村京太郎さんが出演されていて、読者から時刻表が違うとか、そこにその看板はないなど指摘があると話されていました。冒頭での作者の間違いはひどすぎますが、プロにも有るんだなと思いました。
幸いにも、作者は的確な評価をして頂ける読者さんを得ています。
褒めすぎず、欠点を言い過ぎない。抜けた所も、しっかり詰めた所も間違いなく見逃さない。ここまでの評価は、小説を書ける力がないと出来ないと思います。残念ながら、この方が作者登録されてないのが不思議なくらいです。
作者も評価を試みた事がありますが、誰にでも評価は出来る訳ではないと思いました。相当に読み込まないと、的確な評価は無理です。さらに、自分の小説はどうなんだ？と思い出したらもう…できなくなります。ちゃんとした物が書けない内は無理だなと…。メッセージ欄は有りですが、作者登録されてない方には返信出来ない不都合が有ります。

武上渓を読まれた方、評価や感想が無理であればメッセージ欄に一言をお願いします。返信出来ませんが、月刊武上内で取り上げさせて頂く事は可能です。
場所は作者紹介をクリックしてもらって、一番下のメッセージを送るをクリックして下さい。

物語を書く人間にとって重要な事は、何だろうと考える事が有りま

す。主題に沿って作者の考えを表現する。それにプラスして、多くの人がパッと読んで楽しめる物語にする。しかしながら、これだけ世の中のシステムがルールを逸脱し始めると、楽しい物を書いてる場合かと思ってしまいます。もっと批判し叫弾しなきゃとも思います。でも、ルールを逸脱している人達は目の前の危機を回避するだけで精一杯なんだと思います。彼らに批判を浴びせても、自己防衛するしかないでしょう。

大切なのは、未来を見据える目を、武上渓も含めて持ちましょうと云う事だと思います。自分が今するこの判断は、未来にどう繋がってゆくのか考えるなら、この先は繋がっているのか、行き止まりなのかを予測できるはずです。

携帯小説の未来は、どうだろうか?。プロがやれない事を、私達が切り開いて行くなら、希望は有るはずです。何にも縛られずに書く事が出来る訳ですから。

携帯小説に来て下さる読者さんと共に、出版業界には出来ない未来を作り出してゆかなければと思います。

今月はこんな所で、また来月号でお会いします。武上渓でした。

２００８年１０月１日

武上渓

月刊武上１１月号

ー月刊武上１１月号

まずは近況です。
軟式テニスを舞台とした物語を進行中です。硬式テニスよりも遥かに多い競技人口を誇った時代、昭和の中学校テニス部の人間模様を描く予定です。

では今月のテーマです。新しい事とは何か？と云う事について思いつくまま書いてみようと思います。
コンピューターの将棋ソフトをご存知だと思います。
この開発者の方が、将棋ソフトの技術が何の役に立つのかわからないと云う事が、新しいと云う事の要素だと書いていました。
ノーベル賞のクラゲの蛍光タンパク質の話を思い起こされる読者さんもおられると思います。
発見者は発見しただけで、用途を考えたのは別の科学者だそうです。

ひるがえって、ファンフィクションと云うのは、この新しいと云う要素を持っている感じがします。まさに何の役に立つのか不明です。
著作権が有る限り、それでプロ作家になるのは不可能です。
原作のバリエーションを増やすだけの事なら、正に蛇足…不要だと思います。

しかし。
オープンエンターテイメントと云う観点から見ると別の意味合いを持って来ます。
主題に拘束されず、複数の人間が原作の設定で書く…物は自然とオープンエンターテイメントになって行くようです。
要するに、原作よりも多くの人がパッと読んで、楽しい物になるのです。

ガンダムを取り巻く状況は、合法的ファンフィクションそのものです。富野監督の原作は、複数のスタッフによって変更され、さらに、色んな作家が独自のストーリーでコミックを出版しています。
これが実に面白い。
単なるロボットだった物が、開発者の物語まで出版されています。

武上渓は、原作者が質の良いレベルの高いファンフィクションなら、公認しても良いんじゃないかと感じてます。
小説が売れないと言われてます。売る側が小説はこうあるべきだと限定しすぎてはいないでしょうか?。そうした固定観念を打ち破る役割をファンフィクションが担えるかもしれないと思います。
作家は他人に、指図されるのは不快です。しかし、他人の物語に対する捉え方に耳を傾けない人間は作家として失格だと思います。
書き手と読み手で、小説です。両者の想いが同じなら、小説は売れない訳がないと考えます。

それは文章の上手い下手とか、レベルではなくて、気持ちの部分かもしれません。ようするに、読み手の事をどこまで考えたか?です。
これは、なかなか難しい問題です。

武上渓の一作目は、読み手の事は一切考えていませんでした。自戒の為に、削除しないでいます。
逆に神様はきっと見ているは、色んなポジションの読者さんを想定しすぎてしまいました。おかげで、全ての読者さんに不満が残ってしまったようです。

ファンフィクションが次に何に繋がるかで、小説の未来が決まるかもしれません。考えてみれば、原作の映画化やドラマ化はファンフィクションと捉えても間違いないと思います。

もし武上渓の小説のキャラで書いてみたい方は、メッセージ欄なり感想欄なりにご一報下さい。
公認のファンフィクションとして、書いて頂きたいと思います。
では。
今月はこんな所で…また来月号でお会いします。武上渓でした。

２００８年１１月１日
武上渓

ー月刊武上１２月号

ー月刊武上１２月号

月刊武上も今年最後となりました。この一年、武上渓にお付き合い下さり有難うございました。次回作は、充分校正を行って１月中には投稿を開始する予定です。竹山透が一枚の写真をきっかけに、高宮愛の中学生時代軟式テニス公式試合を取材する話になってます。無敗の全日本チャンブを、いかにして高宮愛が破ったかを、上土居中学校テニス部内の人間模様を絡めながら描いてゆきます。登場人物としては、能登島秀彦や椎名美花。導入では山際正義が登場します。ゲスト出演的には、一色登や山際厚。姿は出て来ませんが、生前中学生時代の阿部史也が取材の中で出て来ます。２部もアメリカも登場しません。高宮愛の思い出の中の夏を、竹山透が再現してゆきます。

今年はプライベートな時間を、他の事にさんざん喰われてしまう年でした。そのあげくの果ての焦りから、投稿でもヤッテモウタをしてしまいました。読者さんをがっかりさせてしまったのは残念でなりません。

ですが。武上渓としては、前を向いて次に行くしかありません。何が有ろうと、手順を省略した物を世の中に出さない強さを持たなければならない。それが身に染みた一年でありました。

これは、時代のテーマかもしれません。間に合わせるのが、優先順

位の一番目ではないんですね。
食品や自動車、鉄道を始めとして、間に合わすが原因になってますよね。
外国の鉄道のように、２時間遅れで到着しても支障のない余裕が必要なのかなと思ったりもしますが…どうなんでしょうか…。

そんな事を思いつつ…また２００９年版月刊武上でお会いします。
武上渓でした。

２００８年１２月１日
武上渓

1月刊武上09'1月号

1月刊武上09'1月号

明けましておめでとうございます。
昨年は沢山のアクセスを頂き有難う御座いました。本年も基本的なスタンスは変わりません。〝前作よりもマシな作品を〟を旗印に発信してゆきます。

本年第1弾は、竹山透取材による、スポーツ物です。作者は、中学から高校3年の途中まで、軟式テニス部男子部長もやりながら部活動をしていました。その頃の経験を振り返ってみた思いを小説にしました。
高校3年の途中までと言うのは、テニス部の運営に関して、顧問の教諭と衝突して退部したからです。その時に「2度とラケットは握らない。」と誓って現在まで、テニスコートに入った事もありません。今更、どうでも良い事なんですが、おかげで、フォークシンガーやらダウンヒルライダーやら…色んなものに（アマチュアですが）なる事ができました。
週末に軟式テニスをやっているよりも、多くの別の世界を知る事ができたのは、作家としてはプラスだったと思っています。知らない世界に踏み込んでゆけるキッカケになった事は確かです。
ただ、軟式テニスがつまらないと言う事ではありません。
作中でも書きましたが、軟式テニスは詰め将棋に似ています。一球

目のサービスが打ち込まれた時に、勝負は決しているのです。もちろん、全日本のトップクラスの話ですが。心理的読み合いが激し過ぎれば激しい程、目に見えるボールの行方はあっけなく終わります。硬式テニスのように、力と力の激突がないので、理解出来ない方には確実につまらないスポーツになってしまいます。
昨年の全日本軟式テニス決勝のテレビ中継を、偶然見る事ができました。
感想は、もう少し威力のあるサービスを打てよ…でした。入る事を優先して、サービスエースを取れるようなファーストサービスは一本もなく、ビジュアル的な盛り上がりはゼロでした。軟式テニスのウィークポイントです。まぁ…見るスポーツではないのは、確かです。

こんな感じで、本年はスタートさせて頂きます。
読者さんと共に、この一年を会社員作家として生きて行きたいと思っています。
どうぞお付き合い下さい。
ではまた、来月号でお会いします。武上渓でした。

２００９年１月１日

武上渓

ー月刊武上０９‐２月号

ー０９‐月刊武上２月号

１月１８日の日曜日に、京都の河原町に取材に出かけました。ソングライターホシオカがあまりに不評なので、主人公に申し訳なくてもう一作ソングライターホシオカで書いてみよう…と言うのが理由です。

河原町に何が有るかと言うと、坂本龍馬関連の碑が点在しています。ようするに、歴史上のビックネームをホシオカにぶつけてみようと言うチャレンジです。

１８６７年慶応３年の坂本龍馬をロサンゼルス広場に飛ばしてくる予定なので、この年の史実がどうなっているかを調べてみると１０月１４日に大政奉還があり、１１月１５日に坂本龍馬は亡くなっています。そして王政復古のクーデターが１２月９日、翌年明治元年１月３日に鳥羽伏見の戦いと言う流れです。

この史実の中に、フィクションとしての坂本龍馬を滑り込ませようと言う訳です。難関は１１月１５日の展開です。調べてみるとこれがエライ事になってました。坂本龍馬暗殺の定説が有りましたが、それに付随してこの定説を疑問視する文章が有りました。定説が根拠としている証言に確実な証拠はひとつも無いとまで言い切られてました。更に、坂本龍馬の墓とされる場所に遺体が無いと言うに至っては、これは異常としか思えません。明治政府が事件を隠蔽したなんて言うミステリー小説のようです。しかも結末は、無しです。ようするに、定説は史実として使えない事が判明しました。つまり、どう書いても自由だと言う事です。それを踏まえて、河原町の坂本龍馬遭難の碑の前に立ってみました。ここは京都とは思えない大繁

華街のド真ん中で、凄まじい人通りの中を縫って携帯でムービーと写真を撮り、しばし合掌しました。気づくと両側で通行する人達が、終わるのを待ってくれてました。これはマズイと思って、慌て場所を離れましたが、京都の人達にとって坂本龍馬は特別だと言う事に気づきました。

ここから、北に5分とかからない場所に、酢屋と言う坂本龍馬の拠点となっていた場所があります。ここは当時から材木商で、今も同じ商売を別の場所で営んでます。酢屋の建物は建て替えられているものの、坂本龍馬が拠点としていた時代の同じ子孫が、木工工芸品のギャラリーを開いてました。2階が資料館になっていて、展示物の丁寧な解説を聴く事ができました。かなり、イメージ作りにブラスになりました。しかし最大の収穫は、河原町の人達が坂本龍馬に親しみと尊敬を感じている事でした。まるで近所の知り合いのように、龍馬さんは…と語る様子には感動を覚えました。坂本龍馬の基本理念は、暗殺によらない政府と、内乱による戦争をしてはならないでした。河原町の人達にとって、戦争で町が焼ける事を防ごうと活動して亡くなった人物であるようです。

酢屋で、寄せ木細工の箱を買いました。河原町の人達の気持ちをそばに置きながら、キャラクターメイクをしたかったからです。そこから、陸援隊の本部が有った現在京都大学の白川まで、雨の中を歩きました。坂本龍馬は明治維新の功績は無いとされてきました。司馬遼太郎さんが竜馬がゆくを書いた後、再評価されたようです。つまり、薩長同盟　大政奉還　王政復古の提案からその内容に至るまで、坂本龍馬が1人で考えて成功させた状況証拠が有る事が判明したと言う事です。動かぬ証拠は有りません。出たなら、彼の暗殺の事実も究明されなければならなくなるでしょう。

ソングライターホシオカ　龍馬編のイメージはまだ固める時期ではないと思ってます。河原町でのイメージが熟成するのを待つつもりです。今月は、こんな所でまた来月にお会いします。

２００９年２月１日　　武上渓

追記坂本龍馬が葬られたのは、すべて東山霊山とありますが、別の表記を発見しました。高台寺の裏の墓地と言うものです。また京都に行ってきます。

ｌ０９' 月刊武上３月号

ｌ０９' 月刊武上３月号

先月号の続報になります。
海援隊日誌に、藩命により鷲尾山に埋葬したと言う記述があるのを見つけました。調べてみると、鷲尾山とは高台寺の事だとありました。しかし、高台寺は地名も下河原町で鷲尾山はありません。しかし、高台寺の北側は鷲尾町なのです。この北側は高台寺の墓地です。少し小高くなっており、ここが鷲尾山と呼ばれていた可能性が有ります。東は東大谷山で東南は霊山です。つまり、高台寺の墓地に埋葬されたと海援隊日誌は言っている訳です。
そんな流れで、高台寺に行ってみました。拝観料を払って入ると北側に墓地に入って行く事が出来ました。
…が。低い柵と順路の標識に拒まれました。間違えたとは嘘でも言えないので、しばし熟慮の上断念しました。高台寺はガイドの女性が沢山配置されていて、墓探しで不審に思われたら警察を呼ばれかねません。
やるなら、坂本龍馬の墓を探したいと許可を得るべきだと思います。しかし、携帯小説の為にでは許可が下りるとは思えません。
なぜ遺体が無いのかの理由を考えてみて下さい。今の技術は遺体から死因がわかります。もしかしたら、致命傷とされる額の傷が無いのかもしれません。脳漿がでる程の傷なら、頭蓋骨も切れているばずです。それだと、正面から行くのは得策とは言えません。
墓地の真南に開山堂があります。その天井に龍が描かれていました。八方睨みの龍で３６０度視線が追いかけてきます。

描かれたのは龍馬が産まれる前でしょうが、埋葬場所を指定した土佐藩邸の誰かは知っていたのかもしれません。ちなみに、鷲尾山は高知市の北にも有ります。故郷と同じ名前の山にと言う配慮のように思います。

幕末関係の本を見ていて感じるのは、突然がけ崩れのように事実が欠落する事です。筆者の方々は他の文献からそこを、こうであったろうと埋められる訳です。例えば、英米仏蘭の４ヶ国がどう関わったのかについては、建て前としての綺麗事に終始してます。建て前ではなく本音の部分に、坂本龍馬と言う人物が何をしたのかが有ると思います。イギリス公使館通訳のアーネスト　サトウが日記に、才谷（龍馬の偽名）と言う者が三人に殺されたと書いています。新撰組や京都見回隊が斬った浪士は龍馬だけではありません。さらに犯人不明にも関わらず三人と書いている部分が疑惑を呼んでいます。龍馬がイギリス公使館の非合法活動に妨害となっていたとする説も有るようです。当時イギリス公使館は、武力介入や日本国内のどの勢力にも協力したり援助する事を本国議会に禁じられていました。事実、初代のイギリス公使は長州に艦隊を派遣した事で更迭されています。

イギリス公使館が本国議会に知られてはならない活動を、龍馬が直接本国議会に…と盾にしてイギリス公使と交渉していた可能性も無くは有りません。この当時郵便船は2週間に一回横浜から出ています。海援隊には英語に堪能な人物もいました。

また、龍馬はアメリカの身分差別のない社会に憧れていたと有ります。大統領は自分の使用人の生活を考えないと、次の選挙で勝てないのだと感心したと言います。身分の低い人間から切り捨ててゆく徳川幕府とは、逆の社会と認識したと思います。そのアメリカ公使ファルケンバーグとの関わりが、有りません。イギリス商人グラバーから武器調達をするなど、イギリスとの関わりは出てきます。探してみなければなりませんが、当時のアメリカの資料を読まないと

と思ってます。龍馬はどこにも属さない自由人と言うのが共通した人物像になっています。彼が外国のエージェントだったと言う人もいますが、武上渓はそう思いません。外国も含めて、全ての勢力と龍馬自身のプランに沿って、交渉していたと推測します。

最後にこれがどんな意味が有るかを言わなければなりません。日本の今日は、維新からずっと繋がっています。明治に作られた法律が変えられずに残っているものもあります。その最初の部分に不明な部分があると言うのなら、誰かが明らかにしなければなりません。それが悪意やご都合主義であるために隠されているのなら、今も日本に害を及ぼしているはずです。何故日本の法律や憲法、外国との関係がこうなってるのかを知るには歴史をたどるしか無いのです。そこに不明な部分が有る事を許してはいけないと思います。それは未来における判断を狂わしてしまいます。日露戦争で何故勝ったのかを隠蔽した明治政府の政策があります。イギリス　アメリカと連携して、反ロシア組織に資金援助していた事や、様々な工作の末に勝った事を記録として残さず、神の軍隊にしてしまった行く先は第２次大戦だったのです。歴史に不明を残さないのは、未来の悲劇を防ぐ事です。

そんな事を、幕末と明治をたどって感じました。

今月はこんな所で。武上渓でした。

２００９年３月１日武上渓

ー月刊武上０９'４月号

ー月刊武上０９'４月号

まず近況です。
ソングライター　ホシオカ龍馬編の下書きを開始しました。２話まで書き終わった状況です。物語は明治元年（１８６８年）１月３日に始まった鳥羽伏見の戦いから、函館戦争までに至る戊辰（ぼしん）戦争に焦点を絞りました。８４４０人以上が戦死し、出兵した藩の中には財政破綻まで出たと文献に有ります。坂本龍馬が生きていれば、起こらなかったと言う説がある戦争です。脱藩浪人…言ってみれば脱走兵が何の肩書きも身分もない身で、戦争を停止させると言うのは奇話だと思います。どうやって停めるのか…は連載開始をお待ち下さい。
ちなみに、戊辰戦争の前に、大政奉還が有りました。これの果たした役割は、武力到幕の大義名分を無効にした事でした。大義名分がなければ、戦争は行えないのです。現代でも大義名分の無い私闘は許されません。イラクで大義名分の根拠を批判されているアメリカは、尊敬も信用も失って危機に瀕しています。
話は戻って、この大政奉還の原案を書き、後藤象二郎と山内容堂を動かしたのは坂本龍馬その人です。この時点で、戦争勃発を防いでいるのです。
戦争は無くても、紛争は解決できる。そんな夢物語を坂本龍馬を通じて書いてゆく予定です。ご期待下さい。

２００９年４月２日

武上渓

＊４月１日だとエイプリル　フールになってしまうので、２日にさせていただきました。

ー月刊武上０９‐５月号

ー月刊武上０９‐５月号

まず近況からです。次回作は、まだ下書きを脱していません。１７話に入ってます。まだ、完結は見えてません。お待ち下さい。登場人物の数には気をつけてましたが、アメンティティの姉さんやら、西郷さんにアーネストサトウなどなど、これ以上増えると収集がつかない所まで来てます。そろそろ、減らして行かないと…と考えてる状況です。

久々に今月のテーマをやろうと思います。
小説の行間について、書いてみようと思います。

何日か前に、本屋で表紙を眺めていると、養老孟司さんのー読まない力ーなるタイトルに惹かれました。
アマチュアとは言え文章を書いてる人間としては、気になるタイトルです。
要約すると、文章言葉は意識の産物である。しかし、意識は眠っている時にはない。起きている時も常に有る訳ではない。人間は無意識の時間の方が、意識している時より長い。つまり、意識とは人間の一部分に過ぎない。その一部分が生み出した言葉文章を人間の全てだと人は考えてしまう。そこから、頭の中と現実にズレが生じて、問題は解決されず、間違った対策が事態を悪化させる。無意識と云

う予測不能な部分が有る事を頭の隅に置いて、意識と現実のズレを修正しましょう…と云う事のようです。

じゃあ。

小説は人間の一部分だけを取り扱っているんでしょうか?。文章で成立してますから、そう言えます。

しかし。

小説を文の芸術に昇華させている物が有ると思います。

行間です。

文章が意識の部分なら、行間は無意識の部分です。

行間に思いを込めるとか、行間を読めなんて、国語の時間に言われた記憶が有りますよね。

文章と行間で、小説は人間の全てを表現する芸術だと…言っても良いんじゃないかと…。

引き込まれる小説は、情景が浮かぶし感情移入も容易です。これらは、行間を読んでいると言って良いかもしれません。文章に出来ない無意識を行間に描く…小説は何とも素晴らしい芸術だとは思いませんか?。

まぁ武上渓としては、あんまりやれてないかなと…反省してしまいますが…。

小説家になろうに関わる私達は、文章だけでなく行間にも思いを込める努力と、それを拾い上げられる力が必要かもしれません。

今月はこんな所で、また来月お会いします。武上渓でした。

２００９年５月１日　　武上渓

1月刊武上09' 6月号

1月刊武上09' 6月号

最初に近況です。
次回作は、下書きを脱して携帯に打ち始めました。修正と変更を加えながら、納得の行く物に仕上げてゆく予定です。

2月くらいから、次回作の為に幕末関係の参考図書を読んでいます。これが1時間も読めば疲れ果てるくらい、面白味のない内容で大変でした。更に大政奉還以降のイギリス公使館の傲慢振りに、まさに嫌になりました。そんな流れで、気分転換に現代史のノンフィクションを読もうと思って、外交敗北なる本を読んだ所…これが、幕末の続きそのものでした。キャスティングは変わっても、外国からの圧力とそれに対して連携する事なく、バラバラに突っ走って迷走する各グループの様子は悪夢のようです。全員が日本の為に良かれと頑張る訳ですから質(たち)が悪い。おかしな事になるのは、他方(よそ)が悪いと非難しあうと言う悲劇も同じです。要するに、日本政府をまとめる機関がない事に驚きました。内閣ですら、省庁と情報を共有できずに、対抗意識まで燃やしているようです。日本全体を考える事が出来なかった、薩摩長州とほぼ変わり有りません。日本人は、自分の役割と全体の流れを同時に考えられないのでしょうか?。まあ、自分の小説に一杯一杯で、小説家になろうの事まで考えが及ばない自分を思えば…他人の事は言えないかとも思います。

将棋の羽生さんが、局面よりも全体の流れで指すと言う事を言って

いました。目の前の盤面が悪くても流れが良ければその流れを維持する。将棋に負けて、勝負に勝つと言う所でしょう。
別の言葉を挙げれば、サッカー日本代表の中澤選手が言ってます。どんな戦術でもシステムでも勝てば良い。美学を追求するなら、負けた時に責任が発生する訳です。
クレーマーと呼ばれる人々の問題はそこでしょう。細かい事にこだわって、全体を殺してしまう訳です。
批判は、全体を考えてしなければ間違うと言う事でしょうか。
そんな事を心に留めながら、報道を見ると冷静になれるかもしれません。
頑張れ日本国！。右翼では有りませんが、言いたくなります。
今月は、こんな所で。武上渓でした。

２００９年６月１日　　武上渓

ー月刊武上０９‐７月号

ー月刊武上０９‐７月号

まず近況です。
龍馬編は、ストーリー展開で納得出来ない部分が生じて作業を止めています。何が悪いのか判らない状況なので、投稿時期も言えない状況です。待って頂いている読者さんには、申し訳ございません。
ご理解下さい。
代わりに、夏ホラー２００９の企画に投稿を考えています。ホラーは読むのも苦手で、書けるかな？とも思いましたがなんとかなりそうです。

では。今月のテーマです。
なろうに投稿した作品を本にすると言う事
で書いてみたいと思います。

これは、ヒナプロジェクトさんのアンケートな訳ですが、答えようと思った時に、フト疑問が湧いて来ました。
そもそも、作者にとって印刷製本する事が目的なのか？と言う疑問です。
ようするに、出版されると言う意味は、ビジネスの面で作家として成立すると言う事だと思うわけです。４０万部ないし５０万部のニーズが有ればそれは、ビジネスとして成立していると言えるそうで

す。そういう意味から言うなら、ビジネスとして成立しない印刷製本に必要性は無いんじゃないか…と思うわけです。

もう１つ思ったのは、なろうの投稿作品が本になるとしたなら、それは作者が本にするのではなく、読者さんが本にすると言う形も有りなんじゃないかと思います。

この作者のこの小説を印刷製本された物として手元に置きたいから、お金を出しますと言う形であれば、作者も読者もハッピーハッピーなんじゃないかと…。

読むだけなら、なろうのサイトを開けばそれ以上の必要性は無いと考えます。

出版不況の原因は、今まで４０万部ないし５０万部を売ってきた出版社が、それだけの部数を売る事が出来なくなった事によるそうです。プロがニーズを見失った訳です。売れないか、ベストセラーかしか無くなったようです。

ならば、読者にニーズを聞くのが最も良い方法だと思いませんか？。なん万もの携帯小説やオンライン小説が有る訳ですから、本にして持ちたい小説を募集して採算の採れる小説を印刷製本すればリスクは低くなると思うのですが…どうでしょうか？。それによって市場のニーズをつかむ事も出来ると思います。アクセス数は不正操作の疑いもあって、目安にしか使えない現状みたいですが、募集の後期日までに、お金の払い込みが完了されなければ、印刷製本が開始されなければ、不正操作は出来ないんじゃないかと思います。問題は有って、お金が払い込まれなかった場合に、返金など事務手続きの費用を誰が被るのかとか、そもそもこの事務手続きを誰がやるのか…などなど。

現実はクリアしなければならない問題は有ると思います。ただ、出版は作者や出版社が行う物と言う発想を転換してみたら…と言う考え方はどうだろう？と思った訳です。

現実的じゃないと思われますか?。よろしければ、メッセージ欄でも感想でも、意見をお聞かせ下さい。本来は、ヒナプロジェクトさんに言うべきなんでしょうが、アンケート自体の前提に対する意見でもあり、個人的な思い付きでも有り、ヒナプロジェクトさんを混乱させたくないと言う思いから、月刊武上に書いてみました。
では。また来月お会いします。武上渓でした。

２００９年７月１日

武上渓

ー月刊武上'０９　８月号

ー月刊武上'０９　８月号

最初にお詫びです。ソングライターホシオカ龍馬編は、後半部分の書き直しを決定しました。事実上投稿は、無期延期となります。ご理解をお願いします。

私事ですが、７月２４日に父が永眠いたしました。
クライムズクライシスに献辞を書いてから、２年と半月の間、抗がん剤との戦いでありました。
苦しい顔もせず、叫び声もあげず、眠るように呼吸を停止して、２０分も心臓を動かせ続けました。
治癒する事のない戦いでありました。
「命は惜しくないが、寿命まで生きたい」
それが、父にとって勝利条件だったようです。軟式テニス歴６０年以上のプレイヤーとして、間違いなく直腸ガンにも転移にも、ストレート勝ちをおさめたと考えます。
（べすとげーむ
おぶ　ざ　らいふ）の三崎コーチは、父をそのまま物語の中に落とし込んだものでした。コートの中で自分を見つけ、コートの中で生き続けたファイターであり勝負師でありました。策略家であり、部屋には、準優勝や２位の賞状やメダルが溢れています。

闘病生活は、父と母ペアのダブルスでありました。
壮絶ではありましたが、素晴らしい試合でした。
優勝と共に、ベストペア賞を送りたいと思います。
葬儀は、表彰式だと自分は密かに思いました。誇らしげに、ユニフォームとラケットと共に、天に昇って行きました。
父も、次のベストゲームを目指して行ったのでしょう。
武上渓も、負けないように、次のゲームに挑んで行かなければなりません。
今月は私事で申し訳ありませんでした。また来月号でお会いします。
武上渓でした。

ー月刊武上０９‐９月号

ー月刊武上０９‐９月号

まず近況です。警視庁オカルト対策室は、思った以上に携帯端末ユーザーの方にアクセスを頂きました。有難うございます。
これで良いのかと言うくらい、設定説明をカットしたのが幸いしたのかもしれません。主題に対しての理解度は比例して低くなったかもしれませんが…。
龍馬編に関してですが、とりあえず下書きは決定稿となりました。
５話より携帯打ちを再開させますが、投稿開始時期を言える状況に有りません。ご理解下さい。

今月のテーマなんですが、非合法薬物について思いついた事を書いてみようと思います。

数年前に、トラフィックと言う映画を見ました。
内容を要約すると、アメリカ政府の麻薬対策費よりも、麻薬組織の資金の方が多くて、アメリカの麻薬対策の効果が無くお手上げ状態になっている事実を訴える映画でした。
そして、最も有効な対策は、麻薬組織に依存しないと生活出来ない人々を経済的に救済する事だとも訴えていました。

麻薬は最初の一回をやるまでは、人間にとって必要の無い物です。
生活に何の支障も有りません。
目の前に出て来なければ、ほとんどの人が使わないと思います。

それを、国内に流入させ密売組織を存在させている日本政府の責任をどう考えるのか？を思いました。前述の映画と同じ事情が日本政府に有るのなら、非合法薬物を所持使用した人間が居る事に対して、国の失策として謝罪が有るべきだと思います。
所持使用者に罪が無いとは思いませんが、彼や彼女達だけが悪いと言うのは残酷過ぎると感じます。むしろ、国の失策の被害者と言える可能性も感じます。

世界中の根本的な非合法薬物の生産に対して、手を付けなければ、渋谷で身体検査をしてるだけでは、永遠に逮捕者が尽きる事はないように感じます。
警察の仕事ではなく、国家安全保障の仕事であると判断すべきだと思います。
それがなければ、日本社会は崩壊の危険に瀕すると言っても、言い過ぎではないと感じています。

テレビ報道を見ていて、麻薬に手をだす愚かさや弱さを非難する事に異議は有りません。しかし、根本的な問題に言及しない報道に、報道としての役割を果たしていない憤りを感じます。

あなたはどう感じられたでしょうか？。今月はこんな所で。武上渓でした。

２００９年９月１日

武上渓

ー月刊武上０９'１０月号

ー月刊武上０９'１０月号

まずは、近況から。龍馬編は、７話までが投稿可能状態になりました。１ヶ月で２話のペースです。なかなか進みません。下書きが完結しているのにも関わらず…。原因は、坂本龍馬と云う人物を調べれば調べる程に？マークが増えて行く事です。基本的な人物像が、携帯に打っている状態でドンドン変わって行く事に悩まされています。下書きの坂本龍馬と、現在の坂本龍馬のイメージの差が気持ちを重くしている訳です。

司馬遼太郎さんの~竜馬がゆくを読み返してみると、司馬さんも色んな箇所で、疑問符を示唆している事に気づきました。龍馬のエピソードには、事実に基づかないと思われる話が有ると言われています。どれが事実で、どれが創作なのかを判別確定する事は出来ずに、定説と云う形で決着が着けられています。

そうした不明確な話の中から、司馬さんは、事を成す人間と云うのはどんな人物かと云う主題で小説を書かれた訳です。言ってみれば、山ほどあるガセネタの中から、真実を浮かび上がせようと云うチャレンジだった訳です。

こうした事を知らずに龍馬編を始めてしまった為のこの有り様です。

なんとか自らに左の鞭を入れて、残り約１０話を打って投稿するつもりです。

真実関係として、いくつもの外国商会が銃　弾薬　大砲　戦艦を売

り、それらの代金が債務となって明治政府にのしかかったのは間違い有りません。
そして、この手口は今現在も貧しい国々に対して使われています。内戦と呼ばれる物のほとんどは、こうした古典的な手口を知らない人々によって戦われています。
内輪揉めに介入してくる人々は、善意では無く金儲けで来ている事に気付かなければなりません。
善意の人々は、農業を振興させ、地場産業を起こしてくれる人々です。そこに、貧困もテロリストも存在出来ません。平和維持と称して、戦車とヘリと戦闘機を従えてやってくる人々では有りません。
彼らは、外国での自国民の金儲けを守る為にやってくるのです。
イラクやアフガニスタンで起こって居る事は、明治維新に起こった事と本質的に変わり有りません。
レイテ戦記の後書きで大岡昇平さんが書いています。人の土地で金儲けをしようとすれば何が起こるか…それが戦争だと。
世界中の人々が、そろそろその事に気付かなければならないと感じます。
では。今月はこんな所で、武上渓でした。

２００９年１０月１日

武上渓

ー月刊武上０９'１１月号

ー月刊武上０９'１１月号

まず近況から。
龍馬編は、１４話まで投稿可能状態になりました。最終的に２０話完結ですので、あと６話と云う所です。１０月は７話行きましたので、そのペースなら１２月投稿開始になります。先月号で書いたように、気が重い部分も有りますが…もうこれで行こうと云う気持ちになってます。後は読者さんが、どう取ってもらえるかだけですが、これはもう主題について考えてもらえるだけで良しとするつもりです。

何故小説と云うのか?、を考えてみました。主題と云うのは複数の見方…あるいは切り口…が有って、全ての見方を書く事は不可能です。そこで、１方向から見た物を書くから小説と呼ぶんじゃないかと思う訳です。大説と呼ぶ物が有るとしたら、それは無味乾燥な概論となって記録以外の意味を持たなくなるんでしょう。

でも読み手は、主題以外の見方も意識しないと間違うのかもしれません。
戦争物の中で、追い詰められた人間を描く事は分かりやすいです。生死の境でなければ、出せない本質も有るからです。しかし、見方を変えれば殺人物語です。正義の名の下に殺人は行われて良いのか

？。…なんて話になります。それこそ、戦国武将はヒーローでは無くなってしまいます。
ガンダムに至っては、一年戦争開戦時のブリティッシュ作戦で億単位の死者が出た事になってます。ホワイトベース乗組員は、最終回までに何人殺しているか分かりません。
見方を変えるだけで、大虐殺物語になってしまいます。
しかし、ガンダムの主題は環境問題であり、戦争は舞台装置でしか有りません。二酸化炭素よりも、レジ袋よりも、最も環境に深刻な打撃を与えるのは兵器だからです。
そういう意味で、戦争に取り込まれたアムロ　レイが「殺したくないんだ。」と叫ぶシーンも意味合いが違ってくる訳です。
私達の国も知らない間に、戦争に取り込まれている訳ですから…。

色々書きましたが、作者はどこから見ているのかを、読者さんに明確にしておく必要が有ると思います。まぁ、それらを伏せて表現するのが文学的だと云う見方も有りますが…。
武上渓レベルだと、とかくブレますから主題を目の前に置いておく必要が有ります。難しいです。色んな事を言いたくなりますから。
現実の世界は一方向だけで見れない事を知っているだけに…。
では今月は、こんな所で。
武上渓でした。
２００９年１１月１日

武上渓

ー月刊武上０９'１２月号

ー月刊武上０９'１２月号

近況です。龍馬編は投稿を開始しました。次回作は、ガンダムマニアのおっさんの話とだけ決定してます。ラストスターファイターと云う映画が有ります。あの映画の主題から、もう一歩踏み込んだ物になる予定です。ガンダムと云う名前を使う以上、二次創作になると思います。

さて。今年も月刊武上最後となりました。たくさんのアクセスを頂き有難うございます。また、クライムズクライシスで、お気に入り登録をして下さっている２名の方、登場人物ともども御礼申し上げます。投稿終了してから随分時間がたちましたが、１日たりとも途切れる事なくアクセスして頂ける作品となりました。なんどもリピートとして下さっている読者さんにも、厚く御礼申し上げます。

では、今月のテーマに行きたいと思います。
オープンについて思いついた事を書きます。この場合のオープンとは、参加資格を定めないと云う意味のオープンです。ゴルフの全英オープンは、プロだけと言う規定が無いと言う大会ですし、競馬なら、雄雌賞金に関係なく出られるレースとなります。

そうした意味から、小説家になろうもオープンな訳です。こういう人は参加出来ませんと云う事は原則規定されて無いからです。
しかし、あまりにヒドイと感じられる事に対して、排除の動きが緩やかに始まっています。この問題の難しさは、どこで線を引くかに有ります。例えば、どこからが荒らしで、どこからが辛口批評なのか、武上渓は明確に線を引く事はできません。書かれた側がどっちと感じたかで、まさにどっちにでも転んでしまうと思うからです。

文法作法についても同じ事か言えます。表現の芸術性と見るのか、読みにくい意図が理解できないと見るのか…。誰にも決定権は無いように思います。小説家は芸術家で有ると言うなら、あらゆる規制や非難に縛られる事なく、それこそ原稿用紙からもはみ出して広がって行かなければなりません。転じて、本を書く職人だとするなら、字数から句読点改行に至るまで、完璧に仕上げなければなりません。なろうの作家はどっちなの？と云う問題です。武上渓自身は、両方の作家さんが混在して共存できるサイトで有って欲しいと希望します。
せっかくプロの作家さんのように、売り上げにもスポンサーにも、出版社にも縛られる事のない私達が、何故自らを縛る必要が有るんでしょう？。
実害が出た場合にのみ、損害を訴えるのがなろうのオープン性を保ってゆく道と考えます。
なろうが、行き詰まっている日本の出版業界と同じになる必要は無いと思います。

いつか、小説は出版される物ではなくて、完全にサイトで読む物になるかもしれません。何らかのシステムが考案されて、作家は出版社に頼らずに活動している未来も有りだと感じます。

まとめれば、私達は可能な限り誰かを拒否したり排除する事は、回避しなければならないと思います。その先に、日本の出版業界と同じ行き詰まりが待っているからです。
しかし、拒否や排除しないのは難しい上に、不快で我慢が必要です。これは前にも書きましたが、日本映画が観客を失った理由を富野由悠季さんが書いています。
映画界のエリート達が、自分達が良いと思う映画だけを作り続けた結果だと。彼らが自分達以外の人々を起用して、幅広い異なった価値観の映画を制作できれば日本映画は世界で戦えると云う事です。対極に有る価値観が並ぶと、人気と云う物は出るようです。小室哲哉さんが、女の子グループが売れるには、男の子グループが売れなければならないと書いていたのが記憶に有ります。

去る者は追わず。来る者は拒まず。違う価値観と共存して、共に栄える。実害のみ排除する…で良いんじゃないかと思う訳です。
皆さんはどう感じられたでしょうか?。今月はこんな所で、武上渓でした。

２００９年１２月１日　　武上渓

1月刊武上10' 1月号

1月刊武上10' 1月号

喪中につき新年のご挨拶は控えさせて頂きます。
昨年は龍馬編にたくさんのアクセスを頂きました。ありがとうございます。主人公に申し訳ないと云う動機で始めた作品でしたが、目的は達せられました。また、坂本龍馬や戊辰戦争に対する認識も新たにする事ができ、意味の有る作業だったと思っています。

今年は、すでに次回作の下書きを始めています。ガンダムマニアのおっさんの苦悩と目覚めを描いてゆく予定です。投稿中止にならないよう頑張るつもりです。ご期待下さい。

さて。
今月のテーマに行こうと思います。予告編について書いてみようと思います。
かなり前に映画館に行った時の事です。何を見に行ったのかは記憶に無いのですが、入口でチラシをもらいました。
北野たけし監督の1菊次郎の夏休み1のチラシでした。後に一週間で打ち切りになる映画です。ヨーロッパでは名作と言われたにもかかわらず……。チラシは良く出来ていて、見に行こうと云う気になっていました。そして、本編の前に、菊次郎の夏休みの予告編が流

れました。
終わった時には、見に行く気持ちは消え失せていました。主題を語る事なく、映像美を見せる事もなく、見たいと思わせるシーンもなく、こんな物に時間を使えないと思わせる予告編だったのです。おそらく、映画館であの予告編を見た人は１００％本編を見なかったんじゃないかと思います。

何を云わんとしているかと言うと、あらすじも予告編と云う意味で本編並みの配慮が必要だと言う事です。実は前書きや後書きも武上渓は、本編と考えています。そのため本編の中に組み込んで投稿させて頂いています。加えてあらすじも１話として考えるべきかもしれません。小説の題名の次に読むのはあらすじです。これを適当に書いたら目次ページまでたどり着いてもらえません。あらすじの次を読んでみたいと思わせる配慮が必要だと云う事です。違う事を期待して入ってくる読者さんに、バックしてもらう配慮だけのあらすじを、なろうの中で見かけます。それはもったいないと思います。自分の小説に、これを期待して下さいと云う事を書けば、それを期待しない読者さんは自動的にバックするはずです。なろうのあらすじは、もっとソソって欲しいなと感じてます。
ネットサーファーの人達に降りて来てもらう意味でも、あらすじに工夫を！と提唱したいと思います。では、今月はこんな所で。武上渓でした。
２０１０年１月１日
武上渓

ー月刊武上１０'２月号

ー月刊武上１０'２月号

まず近況です。
次回作は外での取材が無いので、去年の京都通いのような事も無く自宅で作業しています。ストーリー的に、立ち寄るスポットは決まっているものの、どの流れで入って行くかが決定していません。またもや主人公を喰いそうな小学生が出てきてまして、慎重に対処したいと思っています。

では今月のテーマです。作った物を世の中に出す覚悟について思いついた事を書いてみたいと思います。

最初にエピソードとして紹介するのは、ゲゲゲの鬼太郎で知られる水木しげるさんの逸話です。
出版社に原稿を持ってゆくと、金が無いから原稿料は払えないと言われた。しかし、本は出さなきゃいけないから原稿はよこせと要求され、原稿を渡したと云う話です。

この話をどう取るかは、様々でしょう。出版社の横暴と取るのか、本を出さないと銀行が融資してくれないからとも取れます。もうひとつは、原稿料を払えない出版社も、原稿をタダで渡した水木さん

にも一貫した覚悟が有ったとする見方です。この本は世の中に出さなければならない…と云う確信と覚悟に裏打ちされて、出版が行われたと…。利益が出なけりゃ撤退だと逃げ去るビジネス屋では無いと…。

今彼らは、世界中のファンによって評価されています。くだらん漫画かっ！とののしった世代は、もう居ません。

売れないからこそ、数字に頼らず多様化した。コストパフォーマンスを良くし足りない部分は身を削って、経営の継続を計る努力が行われた。そして、これは世の中に出版されなければならないと判断された物だけが本になった…。この覚悟と多様性こそが、日本の漫画をワールドワイドさせたと考えます。

今。小説はどうだろうと思います。本屋の棚に多様性はどうでしょう。題材は、本にする程の意味を持っているか？…。売れない物は作らない、と云う意味の売れ筋が積まれています。売り上げを上げると称して、本屋に置かれる期間を短くし、本との出会いのチャンスを奪っています。

逆だろうと思いませんか？。

売り上げグラフから、本は作ってはいけない。魂を揺さぶられた事実から本は作られなければならない。そこに数字的解析が可能だなど、うぬぼれると間違う。本に魂を揺さぶられた事の無い者は、小説作りに関わってはいけないのかもしれません。数字を追って作られた物は、必ず見抜かれてしまう。コイツには魂を揺さぶられないと…。

本屋に行っても買いたい本が見つからない。それが出版不況の本当の原因のように思えてきます。

何故魂が揺さぶられないか？と考えます。数字は過去のデータから導き出される確率だからだと思います。フラクタル理論からすれば、物事はある瞬間から、予測不能の展開を始める物だそうです。天気予報が、どれだけ技術が上がっても天気予告にならないのは、その

理由が有るからです。

つまり、売れ筋予測はある瞬間から当たらなくなる。それでも予測を元に本が作られる。それが現状なんでしょう。本当は、売り上げ表や解析グラフは決算まで机の中に押し込んで、自分の魂の揺さぶりに耳を傾けるべきかもしれません。

自分の魂の揺さぶりを信じる覚悟をしなければ、なろうの行く末も危ういかもしれません。なろうで小説をうまく書く作家さんは、沢山いると思います。でも、魂を揺さぶってくれる作家さんはなかなか見つけられないでいます。いつか出会いたいと願っています。あらすじですら全てを読める訳ではないですが…。これを読んでるあなたが武上渓の魂を揺さぶってくれる日を待ってますよ！。

今月はこんな所で。武上渓でした。

２０１０年２月１日

武上渓

1月刊武上10' 3月号

1月刊武上10' 3月号

今月は、今この時代のテーマとは何だろうか？について、思いついた事を書いてみたいと思います。

いきなり結論から書いてしまうと、結束かなと考えます。日本政府から家庭に至るまで、仲間割れのニュースばかりだと思いませんか？。

経済危機だと言う中で、結束して立ち向かってゆくのではなく、互いに弱みにつけ込んでやろうとする世の中です。

自分がたとえば、人を批判する時にも、これは世の中の為になるか？ならないかを考えるべきです。批判は、必ずしもマイナスに作用するとは限らないからです。プラスに作用する批判で、人々が結束する世の中なら、希望を持てるかもしれません。

一人が気づく事や出来る事には、残念ながら限界があります。成功は複数の人々の協力がなければ有り得ない。しかしながら、成功の報酬は一人に行ってしまう。なぜそれに協力しなければならないか？。それが仲間割れの原因です。

しかし、誰も成功しないジャンルは衰退するしか有りません。

今の日本でも民主党が成功を収めなければ、日本は良くなりません。

それは、民主党が良い政党か悪い政党かと言う事とは関係有りません。まず日本と云う船が沈むのを止め、1人でも犠牲者を減らす事

に結束すべきです。

なろうに向き返りましょう。不正アクセスが、ユーザー登録を生みました。匿名で評価感想をしたい読者さんを排除する結果になりました。

これは、なろうにとってプラスでしょうか？。盗作を指摘する声があります。これはファンフィクションの排除に繋がる危険性があります。ファンフィクションを排除したなろうに未来は有るでしょうか？。あからさまな盗作が産む結末を考えるべきです。

自分が成功するなら、なろうはなくなっても良いでしょうか？。なろうの為に、フェアに徹しましょう。少しでも自分のレベルで幅広くマシな物を書きましょう。それがなろうで結束する事になると思います。ウメさんが、技術的な環境を整えてくれました。次の時代を担う作家さんが産まれる環境を整えられるのは、なろうのユーザーしか居ません。その環境は今有りません。ウメさんの元に結束する事で、それは整えられると考えます。

それは１０年かかるかもしれません。しかし、今のままで良い人は居ないと思います。

今月はこんな所で。武上渓でした。

２０１０年３月１日

武上渓

1月刊武上10' 4月号

1月刊武上10' 4月号

まず近況です。
次回作は3話まで進行しています。導入から展開に入って行く所です。友達が経営するゲーセンを舞台に、ガンダムマニアのおっさんがゲームと現実の間で、悩む姿を描いてゆく予定です。ガンダムを知らない方には理解不能な物語となります。ご了承下さい。

では今月のテーマに行こうと思います。議論について思いついた事を書きます。
前作で坂本龍馬を登場させました。彼は議論で、相手を負かすなと云う意味の事を言っています。
議論で相手を負かすと、負けた恨みだけが相手に残って、議論の内容は残らないからと…。
幕末の暗殺劇の多くは、こうした恨みで起こっているようです。
今、テレビの中も社会も、一方的な罵倒に近い物言いが目立ちます。不況の厳しい状況の中で気持ちは理解できます。
しかし、本質が失われた議論は解決に繋がらない事を思い返す余裕が必要です。常に議論が目的と本質から外れていないか？気を付けなければそれは、恨みの晴らし合いに発展すると思わなければなりません。恨みの晴らし合いとは、テロリズムです。解決ではなく自身の所属する社会組織の崩壊を招くだけです。

戦隊物のように、間違った人々を爆発させたり消滅させる事を、現実でやってはいけない事は誰でも理解しているはずです。悪者は立件して、裁判で公正な判決で処罰するべきです。
議論は、本質と全体に及ぼす影響を考えないで参加するのは危険です。
前作龍馬編でも引用したように、新政府議会に庶民が参加するのは危険だとイギリス公使館通訳は感じていました。
議論が恨みの晴らし合いにならない方法論を理解出来ないと感じていたからです。刀を持った知識層に、斬られそうになった経験上からです。
民主主義は市民で構成されて可能になります。
市民と云うのは、議論出来る人です。議論出来る人とは、恨みの晴らし合いにならない人です。
戦隊物のように簡単ではありません。理不尽で我慢が必要です。何故なら、戦争をするよりマシだからです。
私達は市民で有り続けましょう。
今月はこんな所で。武上渓でした。

２０１０年４月２日

武上渓

ー月刊武上１０'５月号

ー月刊武上１０'５月号

まずは近況です。
交通事故に遭いまして、しばらく歩けませんでした。次回作どころではなく、３話で止まったままです。何とか再開できる状況になりつつあります。ご了承下さい。

では今月のテーマです。次回作はゲーマーの話なので、そのあたりの事を書いてみようと思います。

テレビで加山雄三さんが出てまして、趣味は？の質問に
「僕はゲーマーだから」
と答えて、バイオハザードをやってる写真が出て来ました。１０年前ぐらいなら、いい大人がゲームをやってますなんてのは、恥ずかしい事でしたが時代は変わりました。
初期のゲームはクリアすると、長いご褒美ムービーが流れて苦労が報われた感が有りましたが、今は申し訳程度になってしまってるのが不満です。クリアよりリピート重視だそうです。前述のバイオハザードはコードベロニカで卒業しました。一作目は、何度となく寒気に襲われましたが、単なるシューティングに変貌して行くのに興味を失いました。

長年ゲームをやって来て思う事が有ります。人生は魂のゲームかもしれないと…。人間と言う生物に入り込んで、何がクリアなのかを求めてさまよい歩く。今度こそはと、何度となく生まれ変わってはプレイする。そして、そこに意味の無い事に気付いて魂のゲームを卒業するのかもしれません。わざわざ後悔する為に、そして快楽中枢のすぐに消え去る気持ち良さの為に、ゲームに戻る愚かさを悟って…。

そんな事を背景にしながら、次回作を詰めて行くつもりです。今月号は１日に投稿できなかった事をお詫びします。武上渓でした。

２０１０年５月２日

武上渓

1月刊武上10' 6月号

1月刊武上10' 6月号

まずは近況から。
次回作は7話まで進行していますが、展開を変えたせいで、ストップしています。最初に考えた展開がソングライターホシオカっぽいのに気づきまして、それはやんなくて良いだろうと言う事です。

では今月のテーマに行こうと思います
抑止力について、思いついた事を書きます。前にもミリタリーバランスは抑止力にならないと書きました。軍が展開しているから、好き勝手にできないと言う理屈なんですが…。例えばアメリカ陸海空に抑止力が有るなら、戦争は無いはずですが…アメリカは戦争中です。むしろ、幕末に艦隊を並べた砲艦外交を見る思いです。中国や北朝鮮側から日本を見れば、日本列島の米軍基地と軍事力は、抑止力を越えて恫喝にしか見えない気がします。国家間の紛争を、根本的に解決するのではなく、軍事力を背景に押し切ろうとすれば、納得出来ずに軍事費を拡大し核を持とうとするのは自然な成り行きです。戦場になるのは、北朝鮮であり韓国であり日本です。アメリカに被害は及びません。むしろ、アメリカの軍需産業は潤います。それも、日本が出す戦費で。
極端な事を言えば、戦う理由を無くす事です。北朝鮮が韓国に政権

を委譲すれば、戦争が入り込む余地は有りません。幕末に徳川慶喜が、死を覚悟して大政奉還したように…。それで２００万人の死傷者が想定される戦争が無くなるなら、不可能だと笑う前にチャレンジしてみる価値は充分に有ると考えます。

ファンタジーですが、戦う理由がなければ沖縄に米軍基地が有る理由も無くなります。米軍は自国内に戻るしかありません。
国家間紛争はなくならないでしょう。しかし、戦う口実を無くす事は可能です。どうか外交に携わる方、これから外交の世界に行こうとする学生さん。
戦争をする理由と戦って下さい。戦争は駄目だと知った上で、理由は作り上げられます。あなた方こそが抑止力と呼ぶにふさわしいと考えます。
今月はこんな所で。武上渓でした。

２０１０年６月１日

武上渓

ー月刊武上１０‐７月号

ー月刊武上１０‐７月号

まずは近況です。
７話の展開に違和感があって、動けません。経験上時間を使えば、動けるのですが待つしかありません。
次回作が停滞しているにも関わらず、まだ前作の慚愧が残ってまして…龍馬のナンバー２だった陸奥宗光を調べていた所、見落としていた事実を発見しました。龍馬が暗殺された夜、海援隊は散らばっていて、京都には居なかったと参考図書には書かれていました。しかし、荻原延寿さんの著者陸奥宗光の中で、四条の旅館に陸奥宗光が止宿していたと言う記述を見つけました。しかし、第一発見者の中に陸奥の名前は有りません。海援隊士の白峰駿馬が第一発見者の中に居ますが、何故近江屋から遠くない四条にいる陸奥に連絡を取って、一緒に行かないのか疑問です。さらに、近くにいる陸奥宗光は、暗殺の前の近江屋に登場しません。岡本健三郎や伊東甲子太郎よりも、陸奥が龍馬と会って話してないのは不自然です。さらに、龍馬が手紙でやり取りした最期の相手が陸奥です。なぜ、同じ京に居ながら会わずに手紙でやり取りしているのか分かりません。しかも、陸奥は暗殺に関する事は一切口を閉ざしています。これを、土佐武力倒幕派犯行説に繋げると大変な事になります。陸奥が首謀者の１人になってしまいます。更に、龍馬の暗殺後…陸奥はイギリス公使館の通訳アーネストサトウに会い、公使のヘンリーパークスとも会っています。これが意味するものは、陸奥がイギリス公使館の意向で、龍馬を謀殺したと解釈できます。もし陸奥が首謀者なら、

龍馬の無防備さやあっけない最期は説明がつきます。もちろん、証拠は有りません。もし証拠が有れば、日本史は書き変えられます。そして、陸奥がとんでもない間違いを犯した事になります。陸奥は、後年酢屋を訪ねて涙を流したと言われています。これが自分を悔いる涙だった可能性がないとは言えません。大阪の天王寺夕陽ヶ丘に、２１才で亡くなった陸奥の娘さん清子（さやこ）さんを供養する清地蔵（さやじぞう）が有る事を知りました。前作の龍馬編で、理香子に清（きよ）と名乗らせている場面が有ります。偶然とは言え清子さんが何かに導こうとしているようにも思えます。明日これも偶然、仕事が休みになりました。清地蔵に会いに行ってみようと思っています。何も無いのか、どこかに導かれるのか…来月に報告したいと思います。

では今月のテーマです。１００点の作品について、思いついた事を書いてみようと思います。

なろうの作家さんの中にも、小説自体について語られる方がたくさん見えます。すべて納得が行くし、その通りだと思うのですが、何かが違うと言う気持ちが残ってしまいます。
何だろうと考えてもわからない…。それが氷解する出来事が有りました。

テレビを何となく見ていたら、トリックの監督をされている堤さんがこう言ったのです。
「百点の映像を作る人は、実はたくさんいるんですよ。でも映像のプロとして、それを１２０点１３０点にする努力をしなければいけない…」
なる程、１００点を目指して小説を書いてたら、１００点以上にならないと言う考え方です。
どうです?。小説作法やプロットなどなどの技術を完璧にしたとし

ても、１００点の小説しか書けない訳です。
なろうの作家さんの小説論では、１００点までと言う部分に違和感を感じていたんだと思います。

しかし１００点以上の小説を書くリスクも有るでしょう。もしかしたら、数日でアクセスゼロなんて事も有り得ます。でも、バッターボックスに入って、バットを振らなきゃ、内野安打だって出ません。
とにかく、自分の小説のどっかを変えてみたら良いかもしれません。
では、今月はこんな所で武上渓でした。
２０１０年７月１日
武上渓

1月刊武上10' 8月号

1月刊武上10' 8月号

先月の報告から。
天王寺夕陽ヶ丘清地蔵（さやじぞう）に行って来ました。色んな事が起こらないように、近くの四天王寺にお参りしてから…。
まず異常に感じたのは、あまりにも綺麗過ぎる事でした。案内板は磨耗して消えかけており、周りにゴミはおろか枯れ葉ひとつ落ちていません。お地蔵さん自体も、磨いたように綺麗で汚れもコケのしみすらありません。両脇の石碑も同様で、建立された当時の面影を残していると言っても言い過ぎではありませんでした。戻って来て、ここまで大事にされている理由に何か有るかもしれない…と云う事に気づきました。個人的な好奇心で、話を聞くのは勇気が要りますが、準備をキチンと行ってやってみようと思います。

本屋で坂本龍馬関連の本を見ていたら、司馬さんが天満屋事件の話を書いているのを見つけました。天満屋事件と云うのは、海援隊が三浦休太郎を坂本龍馬暗殺の犯人だとして、天満屋を襲撃した事件です。
その中で、陸奥が暗殺の知らせを聞いて、身の危険を感じて土佐藩別邸白川屋敷に逃げ込んだと有りました。陸援隊の本部にもなっており、身を寄せる場所が無かったのだろうと云うのが司馬さんの見解でした。この中で、海援隊は京に5人居たとなっており、坂本龍馬　陸奥宗光　　白峰駿馬の3人。あとの2人は名前が有りません。

白峰駿馬は酢屋に、陸奥は四条の宿屋に…。要するに、菊屋の峰吉が酢屋に一報を入れて、駿馬が陸奥に知らせた。全滅を避け一旦白川屋敷に退いて、陸奥を残して陸援隊の谷干城らと駿馬が近江屋で第一発見者となった…。　名前のわからない２人は何故駿馬と近江屋に行かないのか？。思い出すのは、アーネスト　サトウが、犯人は３名と書き残している事です。何故人数をサトウが知っていたのか…情報源は陸奥の可能性が高いです。暗殺直後に陸奥はサトウに会っているからです。では、名前のない２人と陸奥が龍馬と中岡慎太郎を斬り、白川屋敷に逃げ込む。駿馬は、白川屋敷で陸奥の指示で近江屋に向かう。海援隊の仲間に事情を聞かれない為に現場には行かない。聞かれて答えるのは駿
馬だ。そして、三浦休太郎に話がそれて行く。天満屋で陸奥は踏み込まない。裏口でウロウロしていただけだと伝えられている。自分が犯人なら、踏み込む馬鹿はいない。そして、陸奥は海援隊を存続しない。
そんな推理も成り立ちます。

天満屋の襲撃や近藤勇を晒し首にしたりなど、他の仲間に比べて陸奥の冷静さは特異に感じます。しかし、後年自由民権運動で投獄される熱さを考えると、同じ人間かと思います。けっして冷静な計算高い人物とは思えません。だからこそ、アーネスト　サトウに丸め込まれた可能性が有ります。彼が悔いて、口を閉ざした真相を書き残している可能性に賭けたいと思います。
今月はこんな所で。武上渓でした。

２０１０年８月１日

武上渓

ー月刊武上１０‘９月号

ー月刊武上１０‘９月号

まずは近況から。
次作はやっと7話を抜けました。最初のプロットを大幅に変更して、予定の結末に繋げるメドが立ちました。二次創作は逆風の様相を見せていますが、〝オープンサイトからの排除反対〟の立場からも自ら二次創作作品を執筆する所存です。

排除ではなく、容認とルール作り、解放する事で、スポンサーさんの要求を呑むのではなく、小説家になろうが書く自由を確保すべきです。にじファンなど、別サイトに分離するのは良い対処と思いますが、逆に問題が起こった場合閉鎖されやすくなったと感じます。これ以上の後退や制限の無い事をヒナプロジェクトさんに希望します。

なろうの作家さんが、スポンサーさんの都合を考えて執筆する事態になる危険の確率を下げるべきです。そんな事は起こらないとお考えですか?。自由の国アメリカでは、イマジンを歌う事が制限される世論が形成されました。過去日本では、ニュース番組からスポンサーが撤退する事で圧力が掛けられました。決して、起こらない事では有りません。
雑誌では、山際さんで有名なナンバーが、突如記事の間の１ページを広告に割き始め、商品関連の記事を掲載し始めました。事情は推察できますが、ため息の漏れる話です。

是非ともヒナプロジェクトさんには、知恵と勇気で対処して頂く事を希望します。

陸奥宗光関連の話は、それ程簡単ではない事が分かってきました。彼は龍馬に比べて無名で、むしろ龍馬に成れなかった男とまで評されているようです。しかし、徴兵制や税制の立ち上げの部分に関わっています。明治政府の要職を最初だけ務めては、辞職して民間に戻り、また呼ばれるのを繰り返します。自由民権運動で反政府的な印象ですが、アメリカ公使になるなど権力中枢に深く関わっています。陸奥自身から、何かが出てくる可能性は低いようです。武上渓的には、陸奥自身の持ち場に関しては龍馬を凌ぐ功績が有ると言いたいです。それが評価に結びつかないのは、龍馬と違って、陸奥は優秀な人材と連携するコミュニケーション能力を、持っていなかったからと考えます。廃藩置県になる流れが読めず、地方政府制になると考えて、和歌山藩にトップレベルの西洋式軍隊を作り上げて、解散させられたりしています。龍馬が生きていれば、陸奥に軌道修正をさせたでしょう。彼は、情報解析出来ないか、読み違いして、ことごとく流れにのれず中央から排除されてしまうのです。

今後も陸奥に関しては、調べてゆくつもりです。明治史の影に常に登場する主要登場人物と言って良いかもしれません。今月はこんな所で…。武上渓でした。

２０１０年９月１日

武上渓

ー月刊武上１０'１０月号

ー月刊武上１０'１０月号

近況です。ゲーマーズフロントの別話を作業中です。７話から接続する別８話から分岐させます。せっかくですので、新しいストーリー展開を考えています。投稿には時間が掛かると思います。ご了承下さい。

ついでにゲーマーズフロントの裏話を書いてみます。
最初に筐体の読みがわからずに、文字が打てずに困り果てました。
次に、ゲルググのコックピットの画像が無く作業が止まりました。
ガンキャノンは、デイ　アフター　トモローで座席の絵がありましたが、パイロットが見ている前面の絵が有りません。０６ザクとグフはラフスケッチが有りモニターや壁面の様子は分かりました。結果的に、中島はガンキャノンのコックピットを自作する事と成りました。
冒頭の女の子が電車の中でシャーの話をするのは、実話です。話の内容は、もっと詳しいもので衝撃を受けたのを覚えています。果たして、自分の認識しているシャーと、彼女たちが認識しているシャーは同じなんだろうか？と考え込んでしまいました。
ゲーマーズフロントのモデルは、ファンタジアンと言うゲームセン

ターです。４階建てのビルで岐阜市の鏡島(かがしま)に実在します。岐阜の中心部から送迎バスが実際運行しています。
白石(ふみ)歩美は作者の元カノそのままです。現在行方が分かりません。

テストプレイは、ジオニックフロントのミッションでの不満の産物です。ガンダムはライフが無限大になっており、ホワイトベースはライフゲージが有るにもかかわらず攻撃すると強制的にミッションコンプリートになってしまう…ガンキャノンは、ドム３機で袋叩きにしたら、ライフが無限大なので２時間経っても袋叩きにされていたなどなど…。
ゲームなんだから負ける時は潔くして欲しいものです。

もう一つは、アメリカ軍のシミュレーターに対する批判が有ります。ゲームと実戦は全く別物で有り、軍事利用するのは間違いだと思います。ゲーム雑誌に次のような記事が有りました。傭兵としてイラクの最前線で戦った経験者に質問がされます。
ー最前線で生き残る秘訣(ひけつ)は何ですか？ー
彼が答えます。
ーそんな物は無い。秘訣は、最前線に行かない事だー
ゲームにはゲームバランスと呼ばれる物が有り、必ず勝つ方法が用意されています。現実の最前線には、用意されて無いのです。もし生き残って勝利したとするなら運が良かっただけです。シューティングゲームをされる１０代の方には、その違いを理解し認識して頂く事を希望します。
最後に、ゲーマーズフロントにアクセスして頂いた全ての方に感謝します。この小説は希望を言って頂ければ、別話をどんどん追加するシステムになってます。よろしければ、感想なりメッセージなりお寄せ下さい。
では今月はこんな所で。武上渓でした。

２０１０年１０月１日

武上渓

ー月刊武上１０'１１月号

ー月刊武上１０'１１月号

最近テレビのニュースは、少し穿って見ると関ヶ原前夜の戦国時代のようにも見える今日この頃です。歴史に学べるのか？歴史は繰り返すのか？…どう頑張っても武上渓は政治劇の観客でしかありませんが、結果の影響は受ける訳ですから覚悟はして置かなければと思うのみです。

近況ですが、ゲーマーズ　フロントの別話を作業しています。ゲームキャラクターが、現実のロボット兵器を操作すると言う形で、世の中に出現する展開になってます。主人公とキャスバル　ダイクンの敵に、シャーを据えてアムロが「俺が止める！」と出て来て、大混乱に陥る展開を考えています。うまく行くかどうかは分かりませんが、やってみるつもりです。ただ、現実のロボット兵器は旧ザクより武装も運動性能も良くない設定ですので、戦闘に制約が大きく盛り上がりに欠けます。マイクバトルのように、舌戦で行くしか有りません。シャーらしさやアムロらしさを出さなければなりません。結構やり直しが必要になる予感がします。投稿間隔が開きます。ご容赦下さい。この先は、複数の展開と複数の結末が有って決定していません。ハサウェイ　ノアの妹のチューミンなんかも使うと面白いかな…なんて思ってます。ただキャラクターがさほど設定が無さそうなので、難しいかもしれません。

ガンダムに興味の無い方々には、申し訳ありません。作者としての幅を広げる試みとご理解下さい。イビチャ　オシムさんも言っています。

ーサッカーはこうあるべきだと壁を作ってはいけないー

ーアイデアの無い者にもサッカーは出来るが、サッカー選手には成れないー

小説に置き換えてみると興味深いです。文字を印刷した、製本された紙ならば…お金があれば誰にでも作れます。しかし、小説は既成概念をはみ出せるアイデアを持った者にしか書けないのだと考えます。レイアウトを知らないと小説は書けないのではなく、編集者に成れないだけです。編集者は小説を商品化する人で、小説家では有りません。彼らは、過去の売れ筋を模倣する事しか出来ません。新しく外に向かって展開出来るのが小説家です。武上渓もそう有ろうと思っています。しかし、容易くは有りません。しかし二次創作が突破口になるかもしれないと思っています。

今月はこんな所で。武上渓でした。

２０１０年１１月１日

武上渓

ー月刊武上１０'１２月号

ー月刊武上１０'１２月号

今年も最後の月刊武上となりました。お付き合い頂いた読者さん、１年間ありがとう御座いました。今年は、二次創作を書くと言うチャレンジで終わりそうです。ガンダムの力と言う物を、ひしひしと感じた１年でした。もう過去のアニメとして時代に耐えられないどころか、まだ時代がガンダムに追いついてないと考えるのは武上渓だけでしょうか…。ロボットはやっと完全二足歩行にたどり着いた所です。これらが、兵器となるのは時間の問題のように思います。モビルスーツにパイロットは乗れないなど言われていますが、爆撃機がリモートコントロールで飛ぶ時代です。ゲーマズフロントで描いたように、別のコクピットで操縦されるかもしれません。

武上渓は、戦争を肯定する人間ではありません。しかし、座して撃ち殺されるのを良しとする程の覚悟は有りません。孫子の兵法と言う中国古典では、まず戦うな…から始まっています。ジオン　ズムダイクンと言うジオンの指導者も、人々の考え方が変わらなければ、スペースノイドとアースノイドの問題は解決しないと言う意味で、人の革新はスペースノイドから出るはずだと言います。それをザビ家が武力に拠らなければ解決しないと言う思想の元に開戦してしまう訳です。

戦争に勝ったとしても人々の考え方が変わらなければ、復讐の連鎖が延々と続くのを、イスラエルやイラク　アフガニスタン　ニューヨークで私達は見ています。敵と戦うのではなく、開戦してしまう考え方や状況と戦わなければならないのかもしれません。
平和と人道を唱えても、北朝鮮の幹部のように鼻で笑われてしまえば終わってしまいます。
国家間の問題を武力解決する事を、時代遅れにする思想が必要でしょう。前述したジオン　ズム　ダイクンの思想は、それを予言する物と解釈できると思います。

実は、ゲーマーズフロントには、こう言った考え方を背景にしています。しかし、出来るだけ省略しています。はっきり言って楽しめない…と言うのが最大の理由です。省略した部分は、行間に込めました。是非とも読み取ってみて下さい。

もうひとつ、ガンダムを支える人気について、気づいた事が有ります。
テレビで島田紳助さんが、こう言いました。
ー子供は、父親がライバルになる時期がある。それは健全な事だー
これが頭の中でガンダムと繋がりました。
ガンダムのストーリーは、親を大人を登場人物が否定する物語です。問題を一切解決出来ないし責任も感じないと…。確かに大人に対して、武上渓自身がそう憎悪した記憶が有ります。そうした憎悪が共感となっている部分を否定できません。物のとらえ方を、考え方を複数に変えて見なければ、憎悪した大人と同じだとガンダムは言っているようです。ガンダムが始まって、３０年あまり…ニュータイプに革新できたか試されています。
では、今年もこんな所で…武上渓でした。

2010年12月1日

武上渓

1月刊武上11' 1月号

1月刊武上11' 1月号

明けましておめでとうございます。
昨年も多くのアクセスを頂きました。ありがとうございます。二次創作にチャレンジした一年になりましたが、まるで論文を書いているかのように、参考図書を読む事になりました。ソングライターホシオカ龍馬編の資料よりは、苦しくもなく楽しめましたが…。ただ、読者さんにはもう一つだったようです。正義が悪を叩き潰す爽快感溢れるストーリーを書くには、武上渓は世の中の裏表を知りすぎています。ゲーマーズフロントは、だからと言って、マイナス思考な物語にしたく有りませんでした。ハッピーエンドでも有りませんが、グッドエンドにはしたつもりです。いまひとつだなと思われた読者さんは、自分なりの〇〇版ゲーマーズフロントを書いてみて下さい。そのままコピーして一部変更されても、武上渓は構いません。元々武上渓に著作権は有りませんので。

電子書籍元年になるのかどうか…わかりませんが、無料である事を除けばなろうも電子書籍な訳で、様々な事情をクリアすれば、なろうの作家さんもダウンロード料の何パーセントかを受け取る日が来るかもしれません。ヒナプロジェクトさんが、出版のアンケートを取られた事が有りましたが、なろうが電子書籍に乗り出す選択肢も有ると思います。出版社がどんなリアクションをするか心配ですが

…。また電子書籍がコケれば無い話になりますが…。

次回作は、タイフーンアイの続編を執筆中です。残念ながら、ゲーマーズフロントで来て頂いた読者さんには、とても読めないストーリーで申し訳有りません。次のステップに武上渓が行くには、どうしても書かなければならない小説です。ご容赦願います。
では、今年も色々あると思いますが、武上渓におつきあい頂けますよう御願い申し上げます！

２０１１年　１月１日元旦

武上渓

１月刊武上１１，２月号

１月刊武上１１，２月号

まずは近況から。
Ｒ１５でラストタイフーンを書かせてもらってます。女装子の描写が中心となっています。これをどう解釈するかでは、好意的な物から極端なアレルギー反応に満ちた物まで様々です。１５才以下の方には誤解を生ずると判断しました。該当する読者さんはご注意下さい。

なろうもランキングが復活して、リニューアルからのダメージから復旧しつつあるように感じます。設定次第では、ユーザー以外の感想も可能になりました。月刊武上は、ユーザー以外の感想も受け付け設定して有ります。よろしければ、ご意見をお寄せ下さい。

最近のテレビを見ていて感じる事ですが…失業者や就職難に対して、狂気のように福袋にバレンタインチョコに走り回り、斎藤選手に群がる人々を映し出す。空港には、バカンスに命がけで出発する群れ…テレビは、日本社会がどうなっているかを判断する素材ではなくなったようです。単に各業界のコマーシャル媒体でしか無いように感じます。中国の軍事費を脅威だと言っていますが、中国９００億代に対して、アメリカ６０００億代…勝負になりません。むしろ、中国が恐怖でパニックになっていると言えなくもありません。日本

には、８０ヶ所以上の米軍基地が有り、海には米韓の艦隊が浮かんでいます。攻めているのは、中国とは思えません。戦端が開けば、得をするのはアメリカ政府だけでしょう。開かせてはなりません。関係各所に奮闘してもらう事を願うのみです。
無闇な反戦は危険です。笑って街を焼かれるだけです。しかし、無用な戦闘は要りません。防がなければ、意味のない命が失われます。

こんな見方も有る事を知っておくのも悪くないと思います。では、今月はこんな所で。武上渓でした。

２０１１年２月１日

武上渓

ー月刊武上１１' ３月号

ー月刊武上１１' ３月号

時代を解く鍵と云うか、行き詰まって行く社会をどう転じたら良いんだろうと考えるようになりました。そこでフト思ったのは、アジアカップで見たシーンでした。

日本代表香川選手が、前を向いて全力疾走している岡崎選手の左足に、ピンポイントでパスを入れたのです。
これの意味する事は何か？中田英寿のキラーパスが通った瞬間だと思いました。
このパスが通れば決定的チャンスになると云うのが、キラーパスです。しかし中田選手のキラーパスが通る事は有りませんでした。むしろ味方を殺すキラーパスだとさえ揶揄されました。
それが何故、香川選手と岡崎選手の間で通ったのか？中田選手は、場所に向かってボールを入れたのに対して、香川選手は走っている岡崎選手に向かってボールを入れたのです。岡崎選手は場所に向かって走っている。彼は走りながら場所にボールをキープして到達する。全力疾走している選手は、それだけでスペースになると考えられます。どれだけ敵が周りに居ても、素早く動けばスペースとなる訳です。

現在。世の中は、こう有るべきだと云うキラーパスが飛び交っていると感じます。振り返れば、過去の月刊武上でもキラーパスを放っています。もう一歩先、このキラーパスはどうやったら通るのか？までをキチンと考察する事が、時代を解く鍵だと考えます。それには、香川選手と岡崎選手のプレイの基本概念が参考になるでしょう。それでは、今月はこんな所で。武上渓でした。

２０１１年３月１日

武上渓

ー月刊武上１１'３月臨時増刊号

ー月刊武上１１'３月臨時増刊号

どれだけの波が
押し寄せても
どれだけの土が
覆っても
どれだけの故郷が
消え去ろうとも
どれだけの命が
海に流れても
どれだけの想いが
想い出に帰しても

私たちは
野の花になろう

踏まれても
抜かれても
土ごと掘り返されようと

気づけば春のそよ風の中
愛でる人なく
咲き誇る

あの野の花になろう

消えた命の数々を
確かに宿した種となり
地の果てまでも
飛んでゆく

あの野の花になろう

東北関東大震災の全ての被災者の方々に、深くお見舞い申し上げます。

２０１１年３月

武上渓

ー月刊武上１１'４月号

ー月刊武上１１'４月号

震災の余波が岐阜にも現れ始めています。それと共に、気持ちの中のさざ波が消えません。これがストーリーを作る部分で起こっており、ラストタイフーンの８話は途中で停止してしまいました。このさざ波が消えるまで再開は難しそうです。野の花になるしか無いようです。

震災の後、未踏の時代と云う本に出会いました。初版は随時昔の本でした。内容は、日本のＳＦの誕生を回顧したノンフィクションです。ここで驚くのは、最初にＳＦを出版した出版社が、２社倒産した事実です。そして、日本のＳＦ作家のほとんどが、生活の為に本業を別に持っていた事です。そして、ＳＦマガジン初代編集長の著者が言うには、アマチュアの延長上にプロが有る訳ではないと…。まったく切り離してしまわないと駄目だと書いている事です。

何を言わんとしているか考えると、売り本は簡単に売れる物じゃないと云う事でしょう。海外で売れているレベルの高い翻訳ＳＦでも当時は売れなかったようです。悲しいかな、どれだけ良い物を書いても採算がとれる訳ではない。読者層を作り上げ、その中からファンをつくり、マニアを形成させる事が出来ないと、あえなく倒産が

訪れる。
そこまでするアマチュアは存在しないでしょう。むしろそんな事をやれるか！と思うのが自然かもしれません。それは、主演俳優が映画の宣伝にバラエティーに行けと言われる気分と同じです。誇り高いアマチュアが一番やりたくない行為です。

出版不況と言われていますが、日本ＳＦの黎明期に払われた労力を読むと、出版業界は必要な事をしていないんじゃないだろうかと思えてきます。彼らは４時間の睡眠時間以外を捧げて、採算のとれるまで持って行った。それを維持する事をしなかったと云うのが、出版不況の真相のように思えます。

良い小説と売れる小説は違うと云うのは、理解出来ても、売ると云う動機で小説を書くのは辛いし苦しい。ましてやその動機を見透かされればソッポを向かれるのは、買う立場でも有る自分がよく知っている。買って下さいまる出しの表紙や帯には気が滅入ります。レッドツェッペリンがバンド名もアルバムタイトルも無いレコードを出した事を想います。そんな本が出せる作家を目指すべきかもしれません。

確かな事は、ブライアン　エプスタインが現れて、ＥＭＩスタジオに連れて行ってくれるような事は、なろうでは起こらないと云う事です。
ならば。採算のとれる違うビジネスモデルで討って出るしか有りません。そんな物が有ればですが…。オンデマンド印刷や電子書籍の中に、活路を見いだせるのかどうかです。

最後は、つまんない話になりましたが、今月はこんな所で。
武上渓でした。

２０１１年４月２日
武上渓

一月刊武上１１' ５月号

一月刊武上１１' ５月号

まぁテレビを見ていると、駄目な話ばかりで元気がなくなってきます。文句を言わずに、明るい未来に向かって結束しようよと言いたくなります。福島の原発の話でも、もはや東京電力や原子力保安院の問題ではなく、日本全体の問題であるにもかかわらず、秘密主義の雰囲気の発表が行われています。責任や保障なんて段階ではなく、原発で戦っている方々に対して全面的協力をする段階ではないでしょうか？。

東京電力の副社長に、怒りをぶつけるのを悪いとは言いませんが、誰か１人でも

「故郷の町を守るために、自分達に出来る事をやらせろ！」

と迫る人が居て欲しいと願いました。もし、武上渓の住んでいる町なら、そう言うと思います。何故なら、故郷は東京電力のものでも国のものでもないからです。故郷を守れるのは、そこで生まれ育った人だけです。

税収を上回る予算を組み、世界にＯＤＡと称して金を配り、思いやりと称して、８０ヶ所にものぼる基地のアメリカ兵と家族を養っている日本政府に、何かを期待するのは無駄です。期待すれば、消費税を上げるしか策がないのですから…。

震災から随分月日が流れました。政府は復興予算を動かせません。予算を元に動くのが政府ですから、何もしていないと言っていいでしょう。何もしないと怒っているより。自分達でやってしまうべきです。やるなと言うなら、今すぐ政府がやれ！と。やらないなら、やらせてもらうと。トタン屋根の小屋でも、故郷の町は自分達が造るんだと…。

ちょっと無責任な感じですが、こんな事を考えると元気が出ます。
皆さんはどうでしょうか？
では今月はこんなところで。武上渓でした。

２０１１年５月１日

武上渓

一月刊武上１１'６月号

一月刊武上１１'６月号

これ以上不愉快な事を作り出す事はない。何故なら世の中には不愉快な事が満ち溢れているから…そんな言葉を思い浮かべています。ただ不愉快な物をキチッと見据えてからの話だとは思います。何故こんな事を言うのかと云うと、震災に関係した事柄が全てシャレにならないくらい滅茶苦茶だからです。　出来るなら、総理大臣がここまで頑張ってるなら、俺達もやらなきゃと思わせて欲しい。残念ながら、その日は永遠に来そうに有りません。不愉快な話はここまでにしましょう。

投稿が滞ってますが、サッカークラブの話を書いてます。今の所は、選手が１人代表１人と、ウェブエンジニアが１人ですが、ゆくゆくは４万人を超えるサポーターを擁するビッククラブになって行きます。オンラインゲームと何が違うのかと言うのが重要なポイントになるのですが、読者さんに理解してもらえるように打ち出して行こうと思っています。

参考図書として、マネージメントの本を読み込んでいます。まぁつ

まんない定義のパレードで、使えないな～と本屋でドラッカーを元の場所に返しました。唯一ヘンリーミンツバーグ著マネジャーの実像は使える部分が沢山有る上に、能登島和代の基本的な業務のイメージ作りに役立ちました。
この本は、マネジャー理論を現実の管理職を観察して検証した物で、マネージメントに興味が無くても分かりやすく楽しめる一冊です。
よろしければ、あなたも読んでみて下さい。

もう１つ云うと、ワイバーンギフはサカつくを現実の世界でやったならと云う部分も有ります。サカつくの攻略本にこんな言葉が有ります。（正確では有りませんが）
ーサカつくの常識は現実のサッカーには通じない。現実のサッカーの常識をサカつくに持ち込んではいけないー
しかしながら、気持ち良さはどちらも変わらない。１６でユースに入って来て引退するまで選手を見守るこのサッカーゲームは、ドラマを充分に含んでいます。非情にも自由契約に及ぶ痛みやサポーターに非難を浴びるもどかしさまでが有ります。
ぶっ飛んだ部分としては、エンディングを迎えると、電車やバス地下鉄はおろか、高速インター新幹線に国際空港までスタジアム近くに建設されます。ホームゲームが有ると、２億から４億の収入があり、運営費は５００億近くになる景気の良さです。気分の滅入ってる方は是非プレイされる事をお勧めします。序盤は苦しいですが、頑張れば１００％報われるゲームです。

では今月はこんな所で。
武上渓でした。
２０１１年６月１日

武上渓

一月刊武上１１，７月号

一月刊武上１１，７月号

今月は、歴史の空白について書いてみたいと思います。
以前にも書きましたが、幕末から明治に至る歴史は空白だらけで、それを定説と呼ばれるものが仮に埋めているだけです。当時は、新聞記者もジャーナリズムも存在せず、幕府や明治政府と言った権力の統制下に有った訳ですから、空白も仕方ないかもしれません。

しかし、今は違います。　ジャーナリストは、取材に対して制限を受けないはずです。それが自主規制と名前を変えて、現場に行かないのは未来に対して、歴史の空白を作る事に他なりません。未来の人々が、この震災を振り返った時に、またしても定説で埋める事になります。今取材しなければ、消える歴史的事実が有る事を報道関係の方々は認識して下さい。

国に対して都合の悪い事は、報道できないかもしれません。報道出来なくても、事実を未来に残すのが重要です。その為には、記者会見場だけでなく、福島原子力発電所と云う原因が見える所に居るべきです。原発の全廃に世論が動く事を防ぎたい人々にとって、それは困る事かもしれません。しかし、事実が伏せられたまま原発が再開するなら、これほど危険な事は有りません。原子炉容器のマーク

１が欠陥を抱えていた事実を事故以前日本の報道が伝えていなかったのは、役目を果たしていないと断言して良いと思います。それは、原子力発電所を廃止しろと云う理論に行くのではなく、現状の改善を行なうよう技術者に要求する事だと思います。それをしないが為に、欠陥は隠され、隠された欠陥は改善したくても改善できなくなってしまいます。

報道は、人々を守って頂きたい。未熟な技術に、手を抜く事を許さないが潰す事なく育てて頂きたい。幾つかのベンチャー企業を叩く事で、彼らの融資先に手を引かせる事の無いようにして頂きたい。私達の前に事実を見せて頂きたい。それが何を意味するかは私達の判断に委ねて頂きたい。

かつて、ブッシュ政権のチェイニー副大統領がニュースステーションでこう言いました。

「世論は変わってゆくものだ」

反戦の世論は、変える事が可能だと……。

安易な危機回避政策で、世論操作をし続けると、本当に必要な危機に世論が操作出来なくなる事を、日本政府も協力する報道機関も知るべきです。根本的な原因の排除をしなければ、室町幕府同様にコントロールを失い、戦国時代に突入します。地方分権道州制は、戦国時代の前触れです。

それは日本国の終焉です。織田信長の時代がどれ程悲惨だったかを、私達は知っているはずです。

刀や槍の時代では有りません。５０万人１００万人が死傷者として想定される時代です。

今月はこんな所で。武上渓でした。

2011年7月1日

武上渓

一月刊武上１１，８月号

一月刊武上１１，８月号

本物と偽物の話をしてみようと思います。
ＡＫＢ４８の仕掛け人秋元康さんが、自分は本物か偽物か聞かれて、自分は偽物で、本物に早く出て来て欲しいと発言されていました。
この話を聞いた時に、ビートルズの有名な話を思い出しました。
ーエプスタインがキャバーンの中に入って彼らを見た時、彼らはすでにビートルズだったー
つまり、本物にプロモーションも宣伝も必要なかった。ただＥＭＩに４人を引き合わせたのが、エプスタインがした全てだったと……。
もちろん、４人が分裂しないようにした役割を果たした事は間違いないと思います。
本物に、秋元康さんの才能は必要無い訳です。偽物だから、綿密な戦略とプロモーションがなければ、誰も酔いしれる事が出来ない。
逆に云うなら、本物ではプロデューサーは仕事を失う事になります。
だから、もはや本物は発掘されないし、本物は企画に合わないからデビュー出来ない。企画自体が必要ないから…。もっと言うなら、あらゆる業界が本物に仕事をさせないようにしているのが、今の日本かもしれません。マーケティングや過去の展開の中に、本物が納まる訳がない。
ー才能を探せ
が業界の鉄則のはずなのに、いつしかマーケティングとプロモーションさえ良ければ、センターはイメージが合い指示に従う役者であ

れば良くなってしまったようです。そろそろ、偽物はもたなくなって来ています。本物を探して、契約させましょう。それだけで、どんな状況からでも業界を少なくとも５０年は支えてくれるでしょう。政界でもスポーツでも、歌でも映画でも舞台でも。まぁ、小説の世界でも。企画会議なんてやめて、街に出ましょう。人々に会い消え去る才能をあなたの業界に連れて来ましょう。そうすれば、我々はまた〇〇界のビートルズに酔いしれる事が出来ます。
では…今月はこんな所で。武上渓でした。

２０１１年８月１日

武上渓

一月刊武上１１，８月増刊号

一月刊武上１１，８月増刊号

二次創作に関して、非常に危機感を感じた為増刊号として投稿させて頂きます。
結論から言わせてもらうと、営利目的でなく、著作権者に損害を与えない二次創作を規制する事は、業界の先細りに繋がると考えます。例えば、アガサ　クリスティがトリックの著作権を主張し、使用を制限していたら、推理小説の出版は不可能です。名探偵コナンも存在できません。何故なら、現在のトリックの全ては、アガサ　クリスティの作品で使われているからです。他には、ポール　マッカートニーがベースラインの著作権を主張したら、ロックバンドは演奏出来なくなります。もっと言うなら、日本の小説は明治の文豪達が発明して、その上に沢山の作家が積み上げてきたものです。彼らが規制しなかったからこそ、推理小説の名作が生まれ、サザンもミスチルもエックスジャパンも楽しめ、私達もなろうで小説を投稿できると考えます。
著作権を行使して厳しく規制する方に聞きます。あなたの著作も過去の先輩の黙認で作られていませんか？。それを何故あなたは黙認しないのですか？一から全て、あなたの発明ですか？それを規制するのは、過去の先輩方の業績をあなたが盗む事になりませんか？。業界の未来の消滅に繋がると、想像できませんか？。あなたさえ良

ければ問題ありませんか?。
一切の損害が生じないのに、権利が有るからと規制するのは、過剰反応と考えます。目的は何か?損害によって著作活動が出来なくなる事です。歌詞の一部を引用転載されて、どんな損害が生じるのですか?著作活動にどんな支障が出るのですか?それより、未来の著作者達に自由を与えてやって下さい。音楽はみんなの物であったはずです。全て、自分の物にしてはなりません。音楽を今世紀で終わらせるつもりですか?このままでは、数年で全てのメロディと歌詞は、誰かの所有が主張され、死後５０年使えなくなり、新しい音楽は作れなくなります。
あなた方はやり過ぎています。そして、それはあなた方の首をも締めて行きます。
自重して頂けるようお願い申しあげます。

２０１１年８月１２日

武上渓

一月刊武上11' 9月号

一月刊武上11' 9月号

1ヶ月の間にも様々な事が起こり、過ぎ去って行きます。
安全の塊のようにCMで印象付けられていた原子力発電所は、広島の原爆より大きな被害を発生させた事がわかったり、テレビから消えるなんて想像もしなかった島田紳助氏が引退したり、一国の首相が反政府組織との関係を疑われたり……。クライムズクライシスを書いていた時、非現実的過ぎるなと思っていたけれども、今や有りそうな、ありふれた話に感じます。そして、日本のジャーナリストの中には、こういう無茶な人がいると思って書いた山際と云うキャラクターが絶滅して、非現実的だった事に愕然としました。

これが意味する事は、正しい世論が形成されないと云う事です。報道が自ら取材に行って記事を発表しないのならば当然です。風評被害が起こるから規制すると云うのが理由らしいのですが、正しい報道がされずに形成された世論ほど危険な物は有りません。第2次大戦中に大本営が日本が勝っていると言い続けて、レイテに送られた輸送船がことごとく沈められても送り続けた歴史を思います。

私達は事実を可能な限りかき集めて、その分野の本物にそれを託し、

彼らの言う事を実現させなければなりません。原子力発電所も経済も行政も政治も外交も。やれない偽物は道を本物に開けなければなりません。平時ではなく、異常事態です。船が傾いて沈んで行くのに、やれる事はやったと言い切る船長は即座にブリッジから出て頂きたい。それを支えていた人々もやれる人間に交代して頂きたい。要求されているのは、沈むのを止める事。被害者を1人でも減らして、救助する事。言葉など要りません。

２０１１年９月１日

武上渓

一月刊武上１１'１０月号

一月刊武上１１'１０月号

以前にＪＲ岐阜駅の文句を書きました。観光案内所が死角に有り、観光客が駅前をさまよっていると云う状況でしたが、改善されましたので報告します。
まず、改札から見えるように、観光案内所の吊り下げ看板が設置されました。さらに、中央出口に観光案内パンフレットを持った案内人が配置されました。岐阜市の対応としては奇跡のような改善です。素晴らしい！やられた方々に最大の讃辞を送りたいと思います。やっと観光の街らしくなりました。ありがとうございます！。
読者さんの皆さん。是非岐阜市観光においでください。

さらに希望を言えば。
現在の武将ブームに乗らない手は有りません。日曜祭日は、案内人が鎧兜で迎えてもらえば最高です。予算は無いし面倒臭くても無理してやりましょう！さらに、連休は市長が本陣風のセットで現在の

岐阜を治める戦国大名に扮装しましょう。そんな暇は無いでしょうが、市民観光客の生の声を聞けます。もし返答に困っても戦国大名ですから

ウム……。

スマヌ。

承った。

何とかする故、暫し待たれよ。

で対応出来ます。最後はチャンバラショーに移行して、襲ってきた武士団から逃げる芝居で打切ります。こういう話題に人々は弱い。これが話題になって、ニュースにでも流れればキャパシティーを超える人々が押し掛けるかもしれません。

すべる危険も有りますが……。　当たれば儲けものだと、覚悟を決められればやれると思います。

ただし、やるならチープに見えてはいけません。金が掛かっているように見える事。歴史マニアが納得する、最新の時代考証で臨む事。

もう一つ。

岐阜城天守と清洲城天守から、完全武装武者が１００人それぞれ出発し、たどり着いた人数と時間で戦うイベントをやりましょう。徒歩で歩道を道交法を守って行います。交通規制が要りません。インチキすれば失格で１００人から削られて補充は無しです。清洲側は、最後に登山が有るので、一時間早く出発します。勝負は天守閣に置かれたタイムカードで判定します。天守閣入口からタイムカードを押してスタートし、中で甲冑を着て出陣です。到着したらタイムカードを押してゴールです。１００人いますから、押し方でも勝負の行方は動くでしょう。

負けた側の市長は、相手側の城のイベントに無条件で参加しなければなりません。

清洲だけでなく、犬山城とか規模を小さくするなら鷺山城跡と行なうと良いかもしれません。

実際は、山のように問題と不手際が発生するでしょうが、話題になる事は間違いないと思います。

考えるだけなら楽しいです。やるとなったら死にかけるでしょう。だから、やれとは岐阜市に言いません。無理ですから。ある種の夢物語です。

今月はこんな所で。武上渓でした。

２０１１年１０月１日

武上渓

一月刊武上１１' １１月号

一月刊武上１１' １１月号

今ＴＰＰを巡って賛成反対で議論が別れています。何故か？貿易のルール変更を行いますと言いながら、どう変更されるのか不明だからです。参加しないと勝手にルールが決まってしまうと云う意見と、参加したら不利なルールを飲まなければならないと云う意見……。日本外交がＴＰＰをどう骨抜きにするかが見ものです。外務官僚さんの腕がどこまで通用するか…頑張って欲しいものです。

これは、野球で一発逆転コーナーをつくる事となんら変わり有りません。正論は、フェアでない、野球では無くなるでかたづける話です。しかし言っているのがアメリカの経済に関わるから、正論ではかたづかない訳です。目的はアメリカ経済が勝てるルール作りだからです。　まるで巨人が勝たないと駄目だと言い続けて、野球ファン自体を減らしてしまった話のようです。こんな事を続ければリスペクトを失い世界の敵になります。アメリカ政府はこんな事をやめて、方針転換しなければなりません。
ダイソンの社長やジョブスのように、一からビジネスを構築し直している人々もいます。彼らは日本製品に勝てる商品を生み出しています。いますぐアメリカ経済界は、打てない４番や足の遅い１番、三振の取れないエースをファームに落とさなければなりません。あ

るいは、自らグランドを去る事で、アメリカを守らなければなりません。彼らがルール変更で勝利するなら、相手チームもファンもリーグを去るでしょう。
ＴＰＰは短期的にはアメリカにとって良い政策です。しかし、長期的にはアメリカ経済を根本的に勝てないチームにしてしまいます。日本は同盟国として、やめるよう説得する義務が有るように思います。
今月はこんな所で。武上渓でした。

２０１１年１１月１日

武上渓

一月刊武上１１'１２月号

一月刊武上１１'１２月号

今年も最後の月刊武上となりました。一年間おつきあい頂き有難うございました。３月の震災で、書けなくなったりと、ある意味考え方を変える転機の年になりました。数字や言葉ばかりでなく、足元の事も考えろと云う事なんでしょう。

今年は、ラストタイフーンとワイバーンギフの２連載で進めさせて頂きました。ラストタイフーンは最終話に向かって、山場を迎えます。愛と道子ちゃんに、最大の試練が降りかかります。ワイバーンギフは、クラブ創設までを一区切りとしますが、能登島和代代表の引退までを描いて行きますので、延々と続いて行く予定です。ラストタイフーンが完結した後に、ソングライターホシオカー陸奥篇を予定しています。龍馬に成れなかった男と称される陸奥宗光。税制・徴兵制創設などに関わりながら、成果を挙げる前にことごとく辞表を提出して中央を去る不思議な人物。明治初期の重要な場面で、必ず顔を覗かせては、下ごしらえを終えると消え去る事を繰り返す。龍馬に成れなかったのでは無く、意図して成らないようにしたように思えます。陸奥が、専制君主制から立憲政体を経て、共和制を目

指していた事を考えると、むしろ龍馬より上の仕事をしたと評価したいと思います。悲しいかな、功績はすべて他の人物…例えば伊藤博文に移ってしまっています。文献からは、治外法権改正以外の功績を読み取れないからです。
究極のナンバー2陸奥宗光に、星岡幸広　遠藤理香子を絡ませて行きます。投稿開始は、ラストタイフーン完結後となります。ご期待下さい。
一年間ありがとうございました。また来年もおつきあい下さい。
今月はこんな所で。武上渓でした。

２０１１年１２月１日　　武上渓

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9936d/

月刊武上

2011年12月1日01時46分発行